

2026年3月期
決算説明会資料

2026年4月30日
株式会社エフピコ
証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意



掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

目次

- **2026年3月期 決算概要** ... **4**
- **企業価値拡大に向けて** ... **17**
- **添付資料** ... **51**

2026年3月期
決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

2026年3月期 決算サマリー



通期

(前年同期比)

売上高2,405億円 (+49億円 +2.1%) 営業利益216億円 (+31億円 +17.0%) 経常利益218億円 (+33億円 +18.0%) 純利益149億円 (+24億円 +19.1%)

売上高、各段階利益 いずれも過去最高を更新

売上高：16期連続増収、営業利益・経常利益：2期連続増益、純利益：4期連続増益

上期

(前年同期比)

売上高1,195億円 (+46億円 +4.0%) 営業利益93億円 (+28億円 +43.6%) 経常利益93億円 (+28億円 +43.3%) 純利益64億円 (+21億円 +48.1%)

**原料の高止まりが続く中で価格改定※が反映
小売り不調により製品枚数98.1%**

下期

(前年同期比)

売上高1,210億円 (+3億円 +0.2%) 営業利益123億円 (+3億円 +2.7%) 経常利益124億円 (+5億円 +4.1%) 純利益84億円 (+3億円 +3.6%)

**価格改定が一巡
スーパーマーケットを中心に拡販が進み、製品枚数101.3%**

株主還元

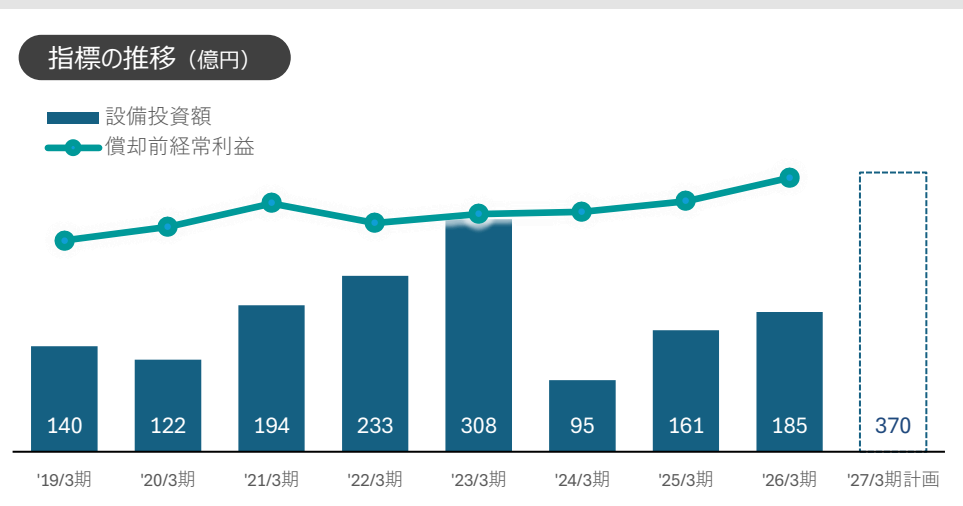
- ✓ 年間配当金は1株当たり73円00銭（中間配当金31円50銭、期末配当金41円50銭）
- ✓ 連結配当性向 39.7%

※価格改定発表の状況 ①2021/10発表 10%以上 ②2022/4発表 15%以上 ③2024/4発表 15%以上

設備投資・研究開発費 (実績・計画)

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期			2027年3月期		
	通期実績	通期実績			通期計画		
	実績	実績	増減	前年比	計画	前年増減	前年比
有形固定資産	15,761	17,997	+2,236	114.2%	36,500	+18,502	202.8%
無形固定資産	351	534	+183	152.2%	500	▲34	93.5%
設備投資	16,112	18,532	+2,419	115.0%	37,000	+18,467	199.7%
減価償却費	14,751	14,594	▲157	98.9%	14,500	▲94	99.4%
研究開発費	1,543	1,903	+360	123.3%	(未定)	-	-

【主な設備投資】	稼働時期	投資総額	(百万円)	
			2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期計画
■ 既存素材製品に関する投資				
自動化設備の導入			554	495
筑西倉庫	2026年12月	1,473	47	1,033
金型			1,714	1,980
■ 新素材「新OPP」への投資				
坂東工場・配送センター (仮称)	2028年9月竣工 (概算)	58,000	4,739	22,023
神辺積層ライン	2026年11月	1,497	457	1,076
■ IT投資				
			666	504



貸借対照表 (2026年3月期 実績)

強固なインフラ基盤による参入障壁の確立と、健全な財務体質の維持

- 「製造」「物流」「リサイクル」を自社で保有する垂直統合型ビジネスモデル
最新鋭の工場・物流センターや自動化投資により生産性を向上
- 安定した自己資本比率を維持
格付けA格を取得、戦略投資を支える高い財務の健全性
- 棚卸資産のコントロール
食のインフラを支える安定供給と欠品ゼロを両立する在庫の最適化

	前連結会計年度		当連結会計年度			
	2025年3月期 2025/3/31	2026/3/31	増減	前年比	2026年3月期 主な増減内訳	
(百万円)						
流動資産	98,847	105,439	+6,591	106.7%	現金及び預金	+6,458
固定資産	193,378	198,622	+5,244	102.7%	建設仮勘定 (内、新OPP製造装置等 +5,196)	+5,923
資産 合計	292,226	304,062	+11,836	104.1%		
流動負債	84,372	86,218	+1,846	102.2%	短期借入金	+986
固定負債	53,739	52,672	▲1,066	98.0%	長期借入金	▲1,028
負債 合計	138,111	138,891	+779	100.6%		
純資産 合計	154,114	165,171	+11,056	107.2%	利益剰余金	+9,088
負債純資産 合計	292,226	304,062	+11,836	104.1%		
自己資本比率	52.5%	54.1%				

キャッシュ・フロー（2026年3月期 実績）

創出したキャッシュを成長投資と株主還元に分け、企業価値を最大化

- 安定した営業キャッシュ・フロー
景気に左右されにくい「食品容器」においてトップシェア、安定的なキャッシュイン
- 次の成長を図る投資キャッシュ・フロー
積極的な戦略投資により他社が追いつけない製造・物流ネットワークを構築
- 安定的な株主還元と成長投資を支える財務キャッシュ・フロー
配当性向40%を目途とし累進配当、財務の健全性を維持

	通期		主な内訳
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	
営業活動によるC/F (百万円)	27,919	29,981	税金等調整前当期純利益 21,457 減価償却費 14,594 法人税等の支払額 ▲6,576
投資活動によるC/F	▲ 14,929	▲ 16,594	有形固定資産の取得 ▲16,012 (内、新OPPシート製造装置 ▲4,496) M&Aによる支出 ▲201
フリーキャッシュフロー	12,990	13,386	
財務活動によるC/F	▲ 18,070	▲ 6,928	配当金の支払額 ▲5,778
現金及び現金同等物の増減額	▲ 5,079	6,458	
現金及び現金同等物の期末残高	19,020	25,478	

業績予想について

- 中東情勢の緊迫化に伴い、原料の調達環境は不透明な状況が継続
6月末までは安定供給できる見通し
情勢の推移を見極め、安定供給の見通しを精査したうえで、
業績予想を速やかに発表

価格改定について

- 原料価格等の高騰に対して、製品価格への転嫁を実施
収益性の維持・向上を図る
4月30日に価格改定を発表、6月1日出荷分より20%以上の改定を実施

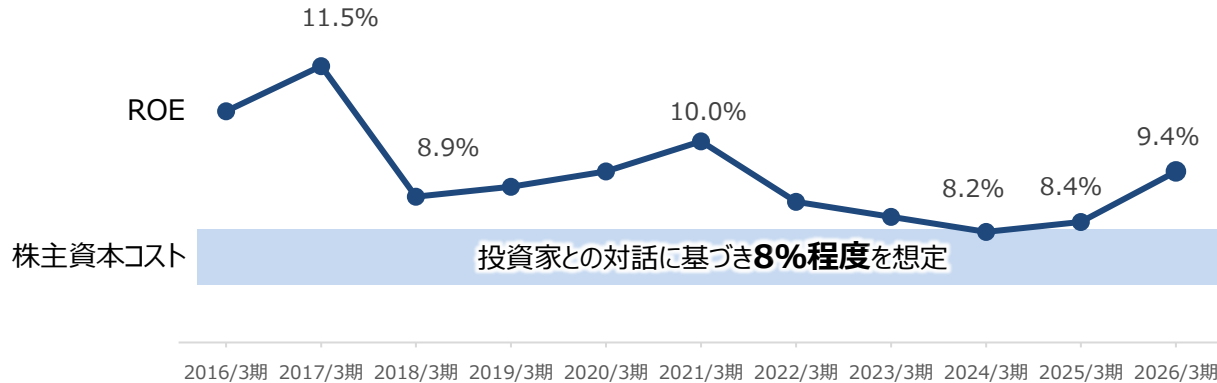
株主還元予想

- ✓ 累進配当に基づき、1株当たり配当は 73円00銭を予定

ROEの向上に向けた取り組み

積極的な成長投資を通じた収益拡大により、中長期的なROE向上を図る

ROEの推移



中長期的なROE向上へ

収益性の向上

- ・原料価格高騰に対する価格イニシアティブ
- ・冷凍マーケットのシェア獲得
- ・海外事業の成長
- ・新OPPによる収益拡大

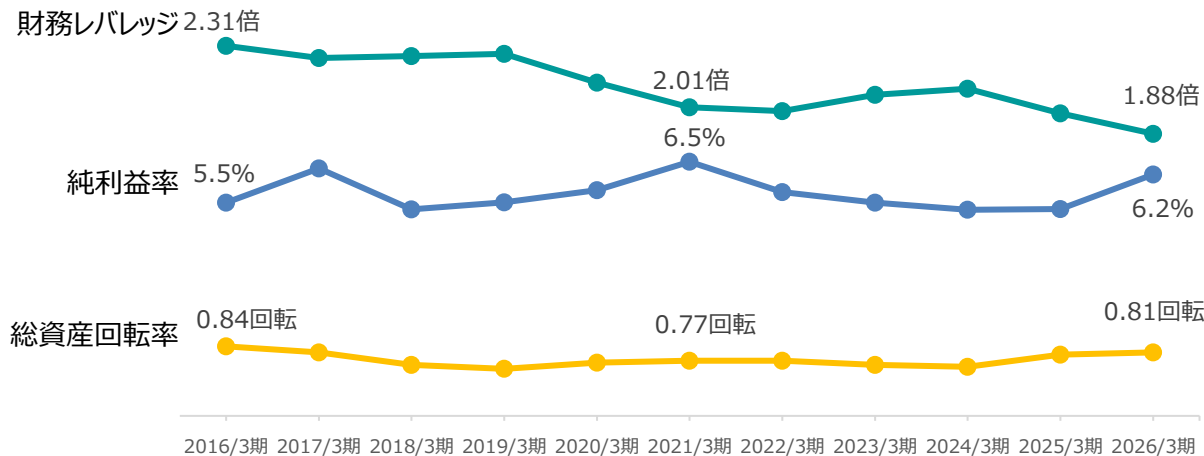
資産効率向上

- ・グループインフラを活用し包材問屋との連携強化
- ・M&A推進・業界再編

財務レバレッジ

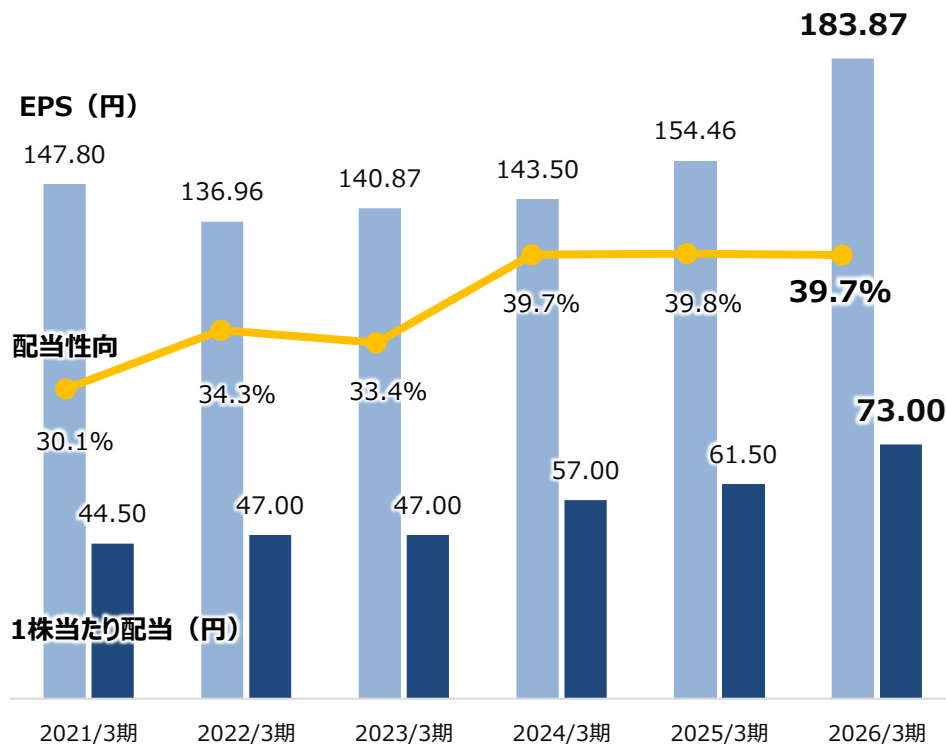
- ・有利子負債の有効活用
- ・累進配当による還元強化

ROE構成要素の推移



本業における稼ぐ力を磨くことで中期的な利益を拡大し、株主還元のさらなる充実を図る

株主還元の考え方



● 成長投資を通じた1株当たり純利益の拡大

- ▶ 2022/3期以降 相次ぐ原料高に対して、価格改定を実施
- ▶ 2026/3期 最高益

● 配当方針

- ▶ 2024/3期 配当性向**30%**→**40%**に引き上げ
- ▶ 2025/3期 累進配当

● 自己株式の取得

- ▶ 2021/3期 40億円
- ▶ 2024/3期 30億円

補足資料

決算概要 (2026年3月期 実績)

(百万円)	通期 実績					通期 計画	
	2025年3月期 実績	2026年3月期			2026年3月期		
	実績	実績	増減	前年比	数量	計画	計画比
トレー	44,497	47,042	+2,545	105.7%	101.5%	46,990	100.1%
弁当・惣菜	132,817	134,161	+1,344	101.0%	98.7%	136,166	98.5%
小計	177,314	181,204	+3,889	102.2%	99.7%	183,156	98.9%
その他製品	3,455	3,298	▲156	95.5%		3,494	94.4%
製品売上高	180,770	184,503	+3,733	102.1%		186,650	98.8%
包装資材	52,802	53,796	+993	101.9%		53,868	99.9%
その他商品	2,055	2,190	+134	106.5%		2,052	106.7%
商品売上高	54,858	55,986	+1,128	102.1%		55,920	100.1%
売上高	235,628	240,490	+4,861	102.1%		242,570	99.1%
営業利益	18,471	21,614	+3,143	117.0%		21,610	100.0%
経常利益	18,451	21,768	+3,316	118.0%		21,500	101.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,486	14,869	+2,382	119.1%		14,700	101.2%
償却前経常利益	33,203	36,362	+3,159	109.5%		36,200	100.4%

ROE	8.4%	9.4%
当期純利益率	5.3%	6.2%
総資産回転率	0.80	0.81
財務レバレッジ	1.98倍	1.88倍

- ✓ 売上高・各段階損益すべて過去最高
- ✓ 売上高：16期連続増収

特記事項

<製品>

- ・製品枚数 物価高による買い控えの影響で前年比99.7%
- ・エコ製品をはじめとする高付加価値製品の販売拡大により、3Q 101.2%、4Q 101.5%と回復基調
- ・上期 製品価格改定効果の反映

<商品>

- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
- ・PB品の販売強化

<海外>

- ・LSSPI社収益性向上

前年比 (実績)

(%)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期計画
製品売上高	105.6	103.7	104.6	100.2	99.1	99.7	102.1	103.3
商品売上高	102.6	101.5	102.0	101.1	103.4	102.1	102.1	101.9
経常利益	179.7	124.2	143.3	101.3	111.0	104.1	118.0	116.5
製品枚数	97.8	98.3	98.1	101.2	101.5	101.3	99.7	99.8

利益率 (実績)

(%)	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期計画
営業利益率	6.8	8.7	7.8	12.7	7.1	10.2	9.0	8.9
経常利益率	7.0	8.6	7.8	12.8	7.1	10.3	9.1	8.9
純利益率	4.9	5.9	5.4	8.7	4.8	7.0	6.2	6.1



エフピコ統合報告書2026 2026年9月末 発行予定

統合報告書を通じた対話の充実により
さらなる企業価値向上を図ります

※表紙イメージ

企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

目次

01. 中東情勢の影響について
02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略
03. エコ戦略
04. エフピコグループのインフラ活用
05. 成長戦略

01. 中東情勢の影響について

02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略

03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 成長戦略

中東情勢の影響を受け、原油、ナフサ等が急騰

当社主要原料 PS・PET・PPいずれも100円/kg前後値上がり（2026年4月～）

6月末までは安定供給できる見通し

リサイクル原料の活用を含めて 安定供給に最大限努力

足元の市況に基づき、

まずは**6月1日出荷分**から**20%以上の価格改定**を実施

情勢が落ち着き、

安定供給を見通せたうえで、業績予想を発表

01. 中東情勢の影響について

02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略

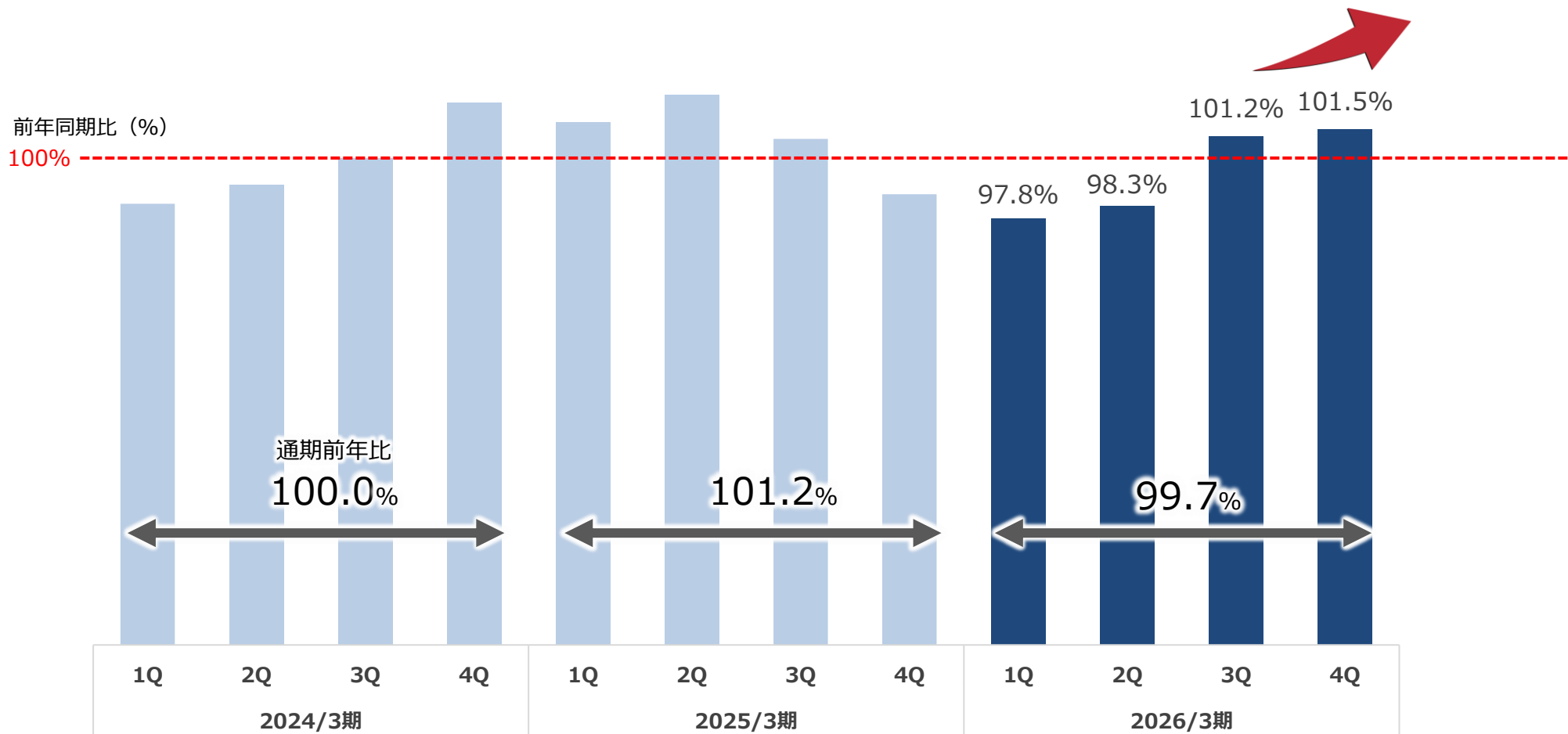
03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 成長戦略

製品販売数量の回復

物価高による買い控えの影響はあるものの、 スーパーマーケット向けを中心に足元は回復基調



食品を中心とした幅広い物価上昇により、買い上げ点数が減少

顧客ニーズの変化

人手不足 ▶ 機械化への対応、作業効率の向上

惣菜PCの
製造工程

容器供給

盛付け

蓋閉め・トップシール

ラベル貼り

コンテナ収納・輸送

PC供給もインスタも
対応できる容器



MSDレニア

トップシールと蓋を併用できる容器



AP-TS丸

変形しにくい
強度のある容器



APデリオ

Point

**機能・強度
輸送効率**

食品価格の高騰 ▶ 見せ方・値ごろ感の演出



MSDレニア



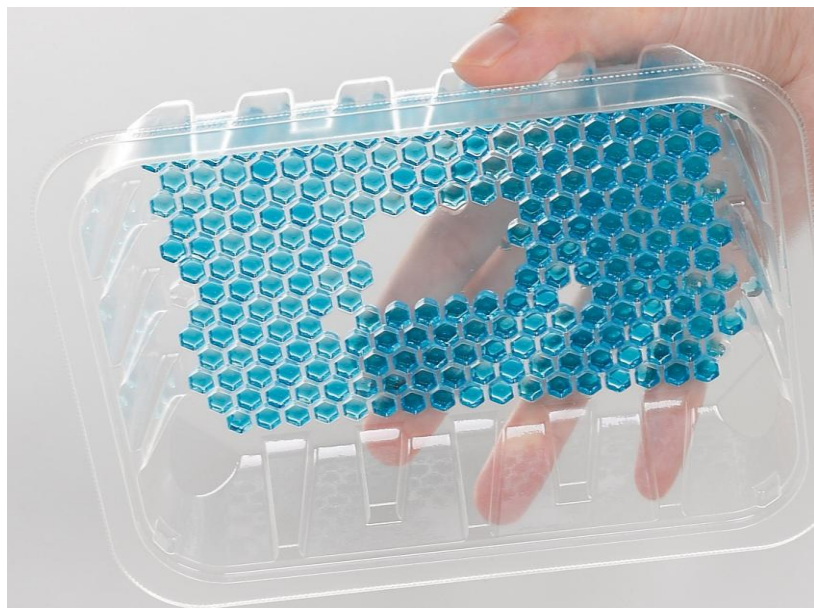
MFPパシオ



Point

**サイズ追加で
量目の変化に対応**
(小型化・蓋の高さを調整)

顧客のコスト対策に応える新製品 ドリップポケット



PSPもまもなく上市予定!

Point

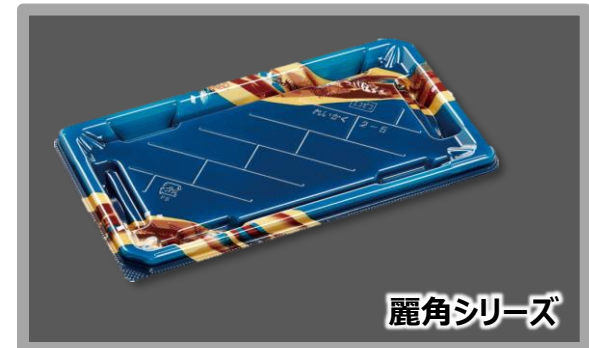
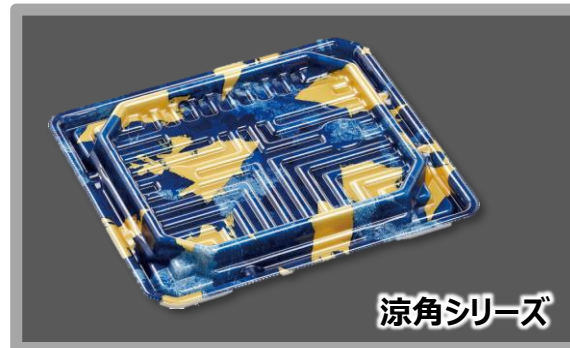
特許技術による成形精度と表面張力の活用で
汎用容器を高付加価値化

▶ **吸水紙が不要**

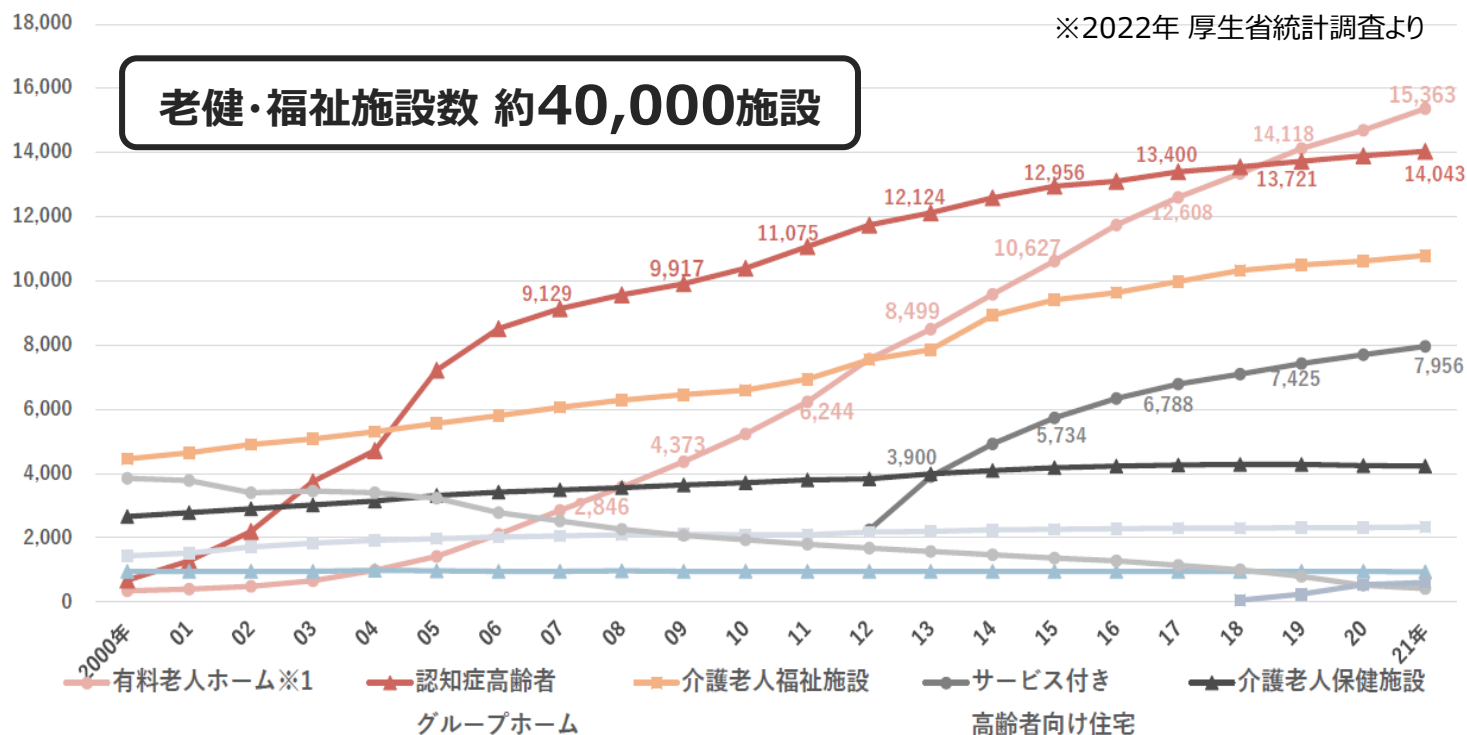
▶ **吸水紙を敷く手間が不要**

主力6シリーズに91型追加し、量目調整ニーズに対応

販売数量 前年比 **200%** (2025年12月実績)



人口減の一方で高齢者人口が増加、食の現場は変革期 深刻化する人手不足に対応したオペレーションが急務



人手不足を背景に

リターナブル容器から**ファーストユース容器**への移行が進む

リターナブル容器

- 厨房業務の4割が食器洗浄
- 都度調理



ファーストユース容器

- 洗浄作業の軽減
 - 冷凍弁当の活用
- 計画的に作り置きが可能
長期保管が可能
盛り付け作業が不要
温めるだけで提供可能



新素材「耐寒 PPIP-タルク®」を開発

12シリーズ、33アイテムラインナップ



FT-TS

Point 1 プラスチック使用量削減

耐寒PPと比較して**プラスチック使用量を25%以上削減**

Point 2 耐衝撃性

耐寒PPFと比較して

冷凍温度帯で割れにくい

Point 3 耐熱性

耐熱温度130℃

冷凍からレンジ加熱まで
幅広い温度帯に使用可能



冷凍環境下でも
割れにくい

真空圧空成形による定位置成形技術を確立

Point 1 生産性向上

従来の熱盤成形と比較して
生産スピードが約2倍

Point 2 見栄え

食器のような柄付トレーで
食卓を演出



介護施設向け給食 採用事例

WJUフードシステムズ沖縄工場様

1日3,000食を製造し、県内の介護施設へ提供

●耐熱容器の活用により、月曜日 1日分、火～金曜日 1.5日分 計7日分を5日間で生産し急速冷凍。完全週休2日。

WJU沖縄工場様
盛り付け・冷凍

輸送・配送
冷凍状態で納品

施設
再加熱

提供
再加熱後、提供



大型再加熱装置



冷凍マーケット 採用事例

スーパーマーケット



中四国企業様



ライフコーポレーション様

冷凍食品メーカー



武蔵野フーズ様

産業給食



シルバーライフ様

病院・介護給食



目清医療食品様

大手冷食メーカー、コンビニエンスストアにも展開中

01. 中東情勢の影響について

02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略

03. エコ戦略

04. エフピコグループのインフラ活用

05. 成長戦略

お店を発着点としたリサイクル「ストアtoストア」

お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトルは
そのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する



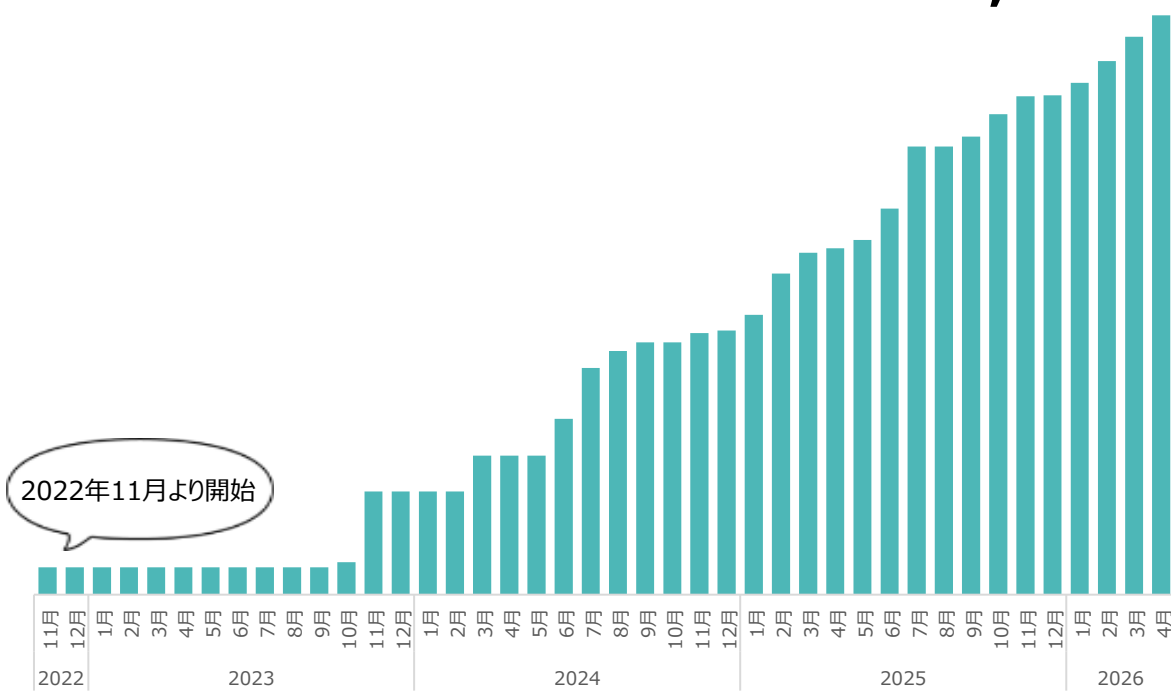
エコストア協働宣言 5,000店舗突破！

(全国のスーパーマーケット総数：約23,000店舗※)

2026年4月時点

141社

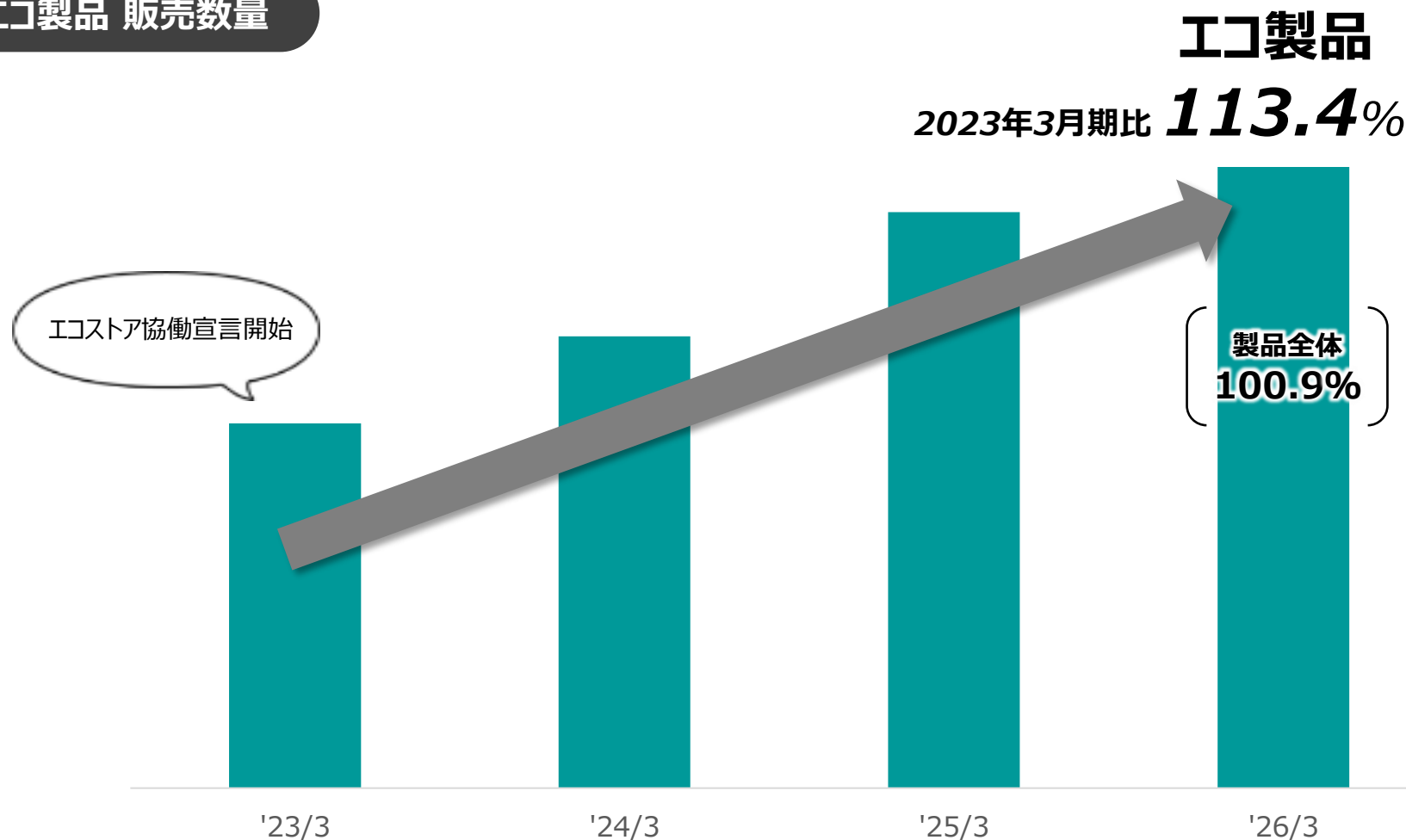
5,261店舗



さらに 300社、10,000店舗へ拡大を目指す

スーパーマーケット様によるエコ製品の選択が拡大

エコ製品 販売数量



エコ製品によるCO2排出量の削減

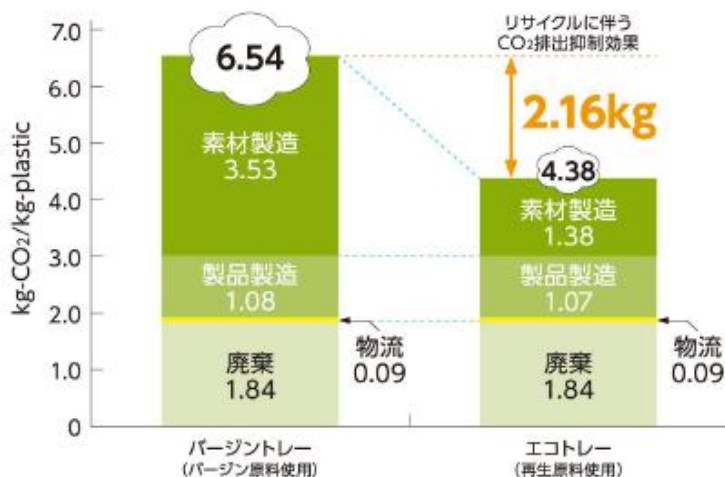
エコPSP容器

CO2排出量削減効果
2026年4月1日出荷分～



33%

バージントレーとエコトレのCO2排出量の比較



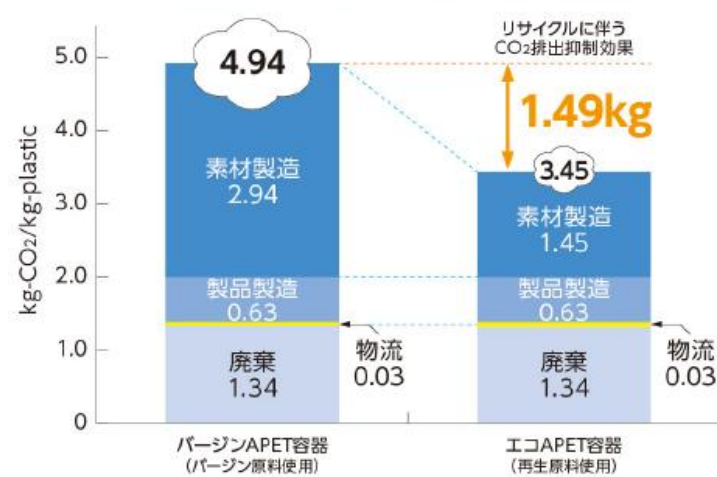
エコAPET・OPET容器

CO2排出量削減効果



30%

バージンAPET容器とエコAPET容器のCO2排出量の比較



エコ製品によるCO2削減への貢献

エコ製品の製造・販売を通じたCO2削減効果が 事業活動による当社グループCO2排出量を3年連続で上回る



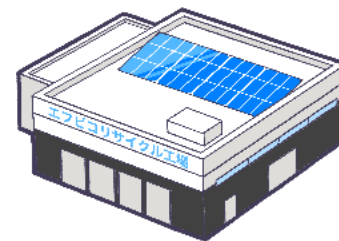
オフィス部門 0.3万トン
物流部門 0.8万トン

CO2削減量の増加要因

- ① 太陽光発電による再生エネルギー導入
エコPSP製品のCO2削減効果 37%
- ② エコ製品の販売が好調
102.1% (2026年3月期前年比 枚数)

CO2排出量の減少要因

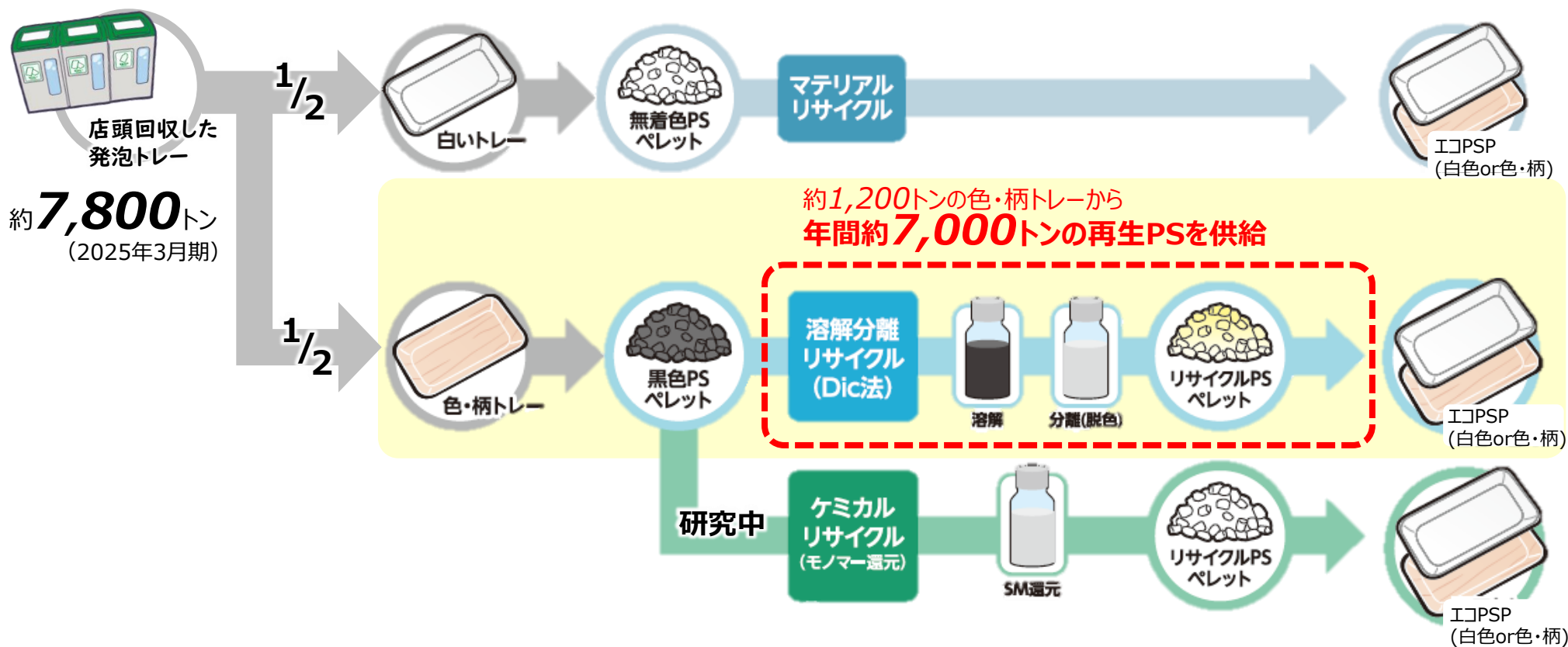
再生エネルギーの活用
省エネルギーの推進



エコ製品の販売拡大

2025年11月5日
中部第一工場 太陽光発電稼働開始

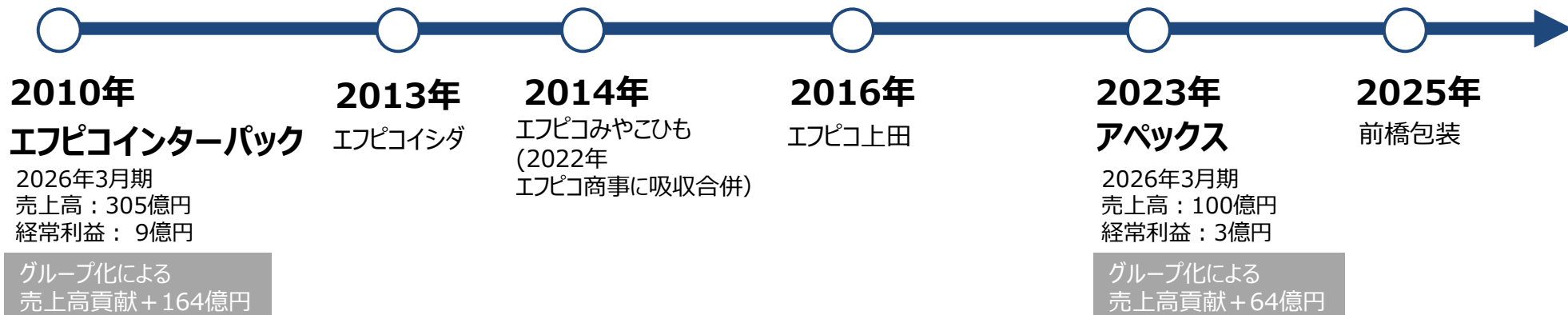
溶解分離リサイクル バージン原料優先のため一時的に停止中



01. 中東情勢の影響について
02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略
03. エコ戦略
- 04. エフピコグループのインフラ活用**
05. 成長戦略

グループインフラの活用により問屋との連携を進め、収益貢献へ

M&A実績



エフピコグループのインフラ

問屋標準基幹システム

全国のディーラー8社導入済み

製商品の ピッキングインフラ

エフピコ商事のMD

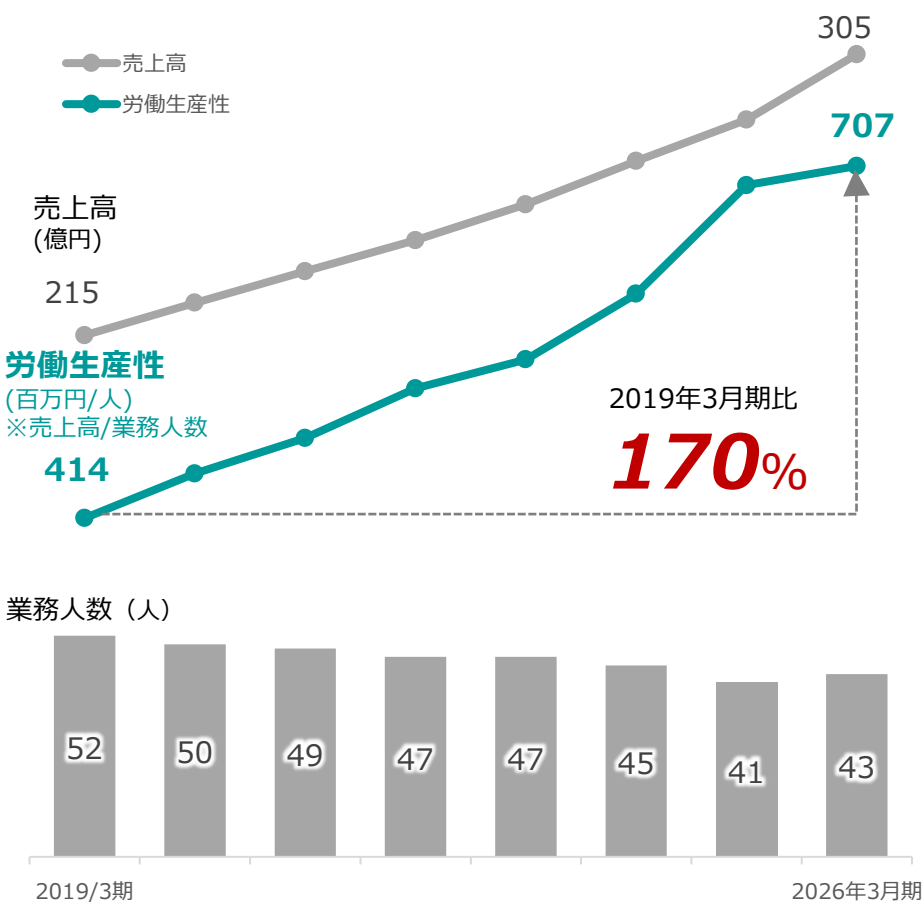
アイテム選定、在庫集約
PB商品の充実

包装資材のECサイト 「パックマーケット」

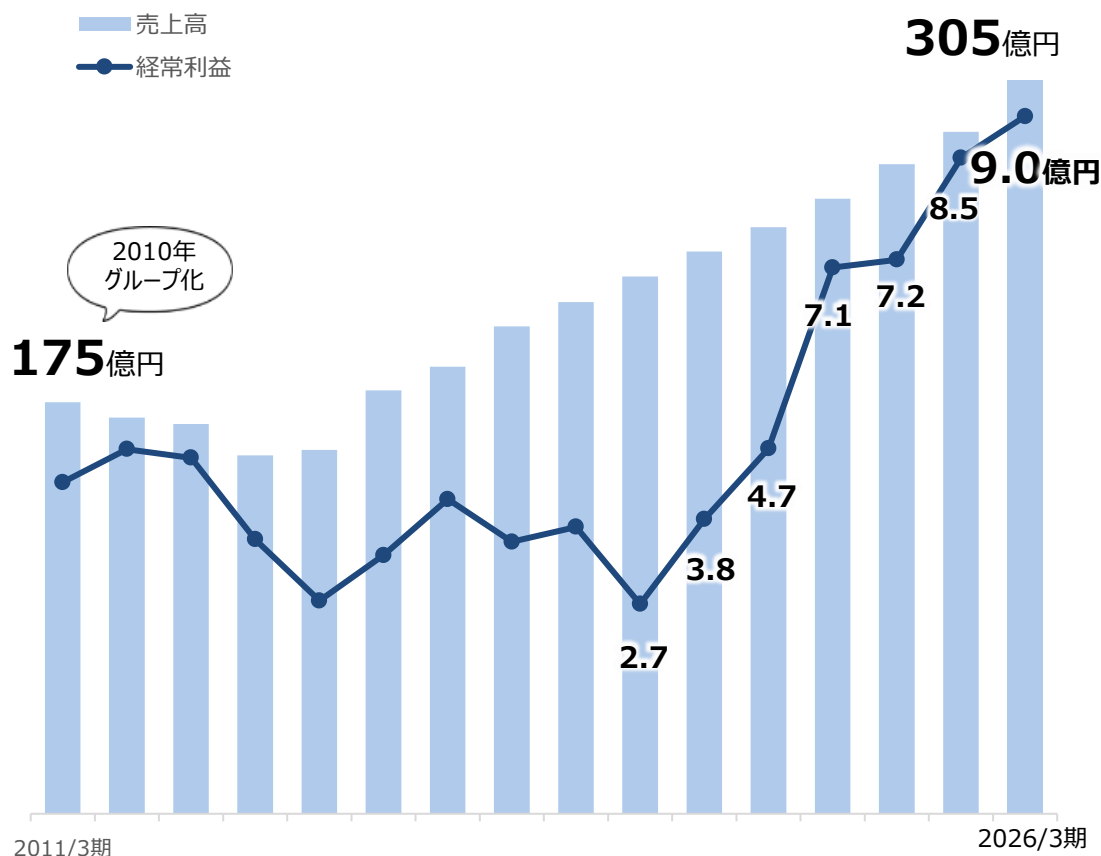


グループインフラを活用した成長モデルを問屋に拡大

業務労働生産性



売上高・経常利益



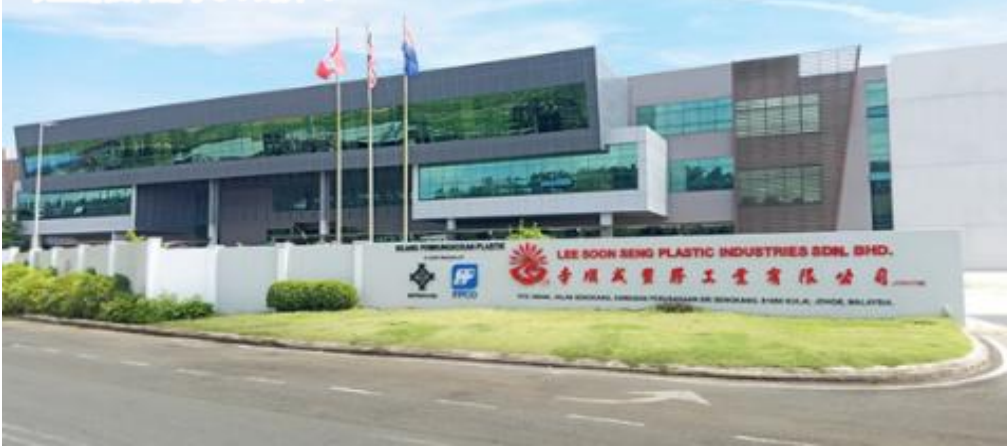
生産性の向上が順調に進捗 売上・利益ともに改善が進み、2027年3月期より収益貢献を見込む

Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

所在地：マレーシア

持分比率：三井物産 60%、エフピコ 40%

売上構成 国内 6：海外 4



ステップ1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ 成形機、押出機等の新設備の導入
- ▶ 製品開発技術の向上
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ2

マレーシア・シンガポールで 圧倒的シェア獲得へ

- ▶ マーケティングの深化
- ▶ 市場ニーズを捉えた新デザイン容器の開発を加速

ステップ3

さらに拡大が期待される 東南アジア市場の礎へ



フルーツトレイ



OPSフードパック



耐熱PP容器
(汁漏れ抑制)

01. 中東情勢の影響について
02. マーケットの変化を踏まえた経営戦略
03. エコ戦略
04. エフピコグループのインフラ活用
- 05. 成長戦略**

既存事業での安定的な成長に加えて、
事業領域拡大により**1桁後半の成長を目指す**

'30/3期目標 売上 **3,000**億円
経常利益 **300**億円

成長領域

新OPP 50~100
海外 100
M&A 100
冷凍 200
農産 50

新素材による事業領域の拡大

既存事業の横展開や
グループインフラの活用による
マーケットの拡大

成長領域における収益拡大により
利益率、ROEの水準を
引き上げていく

既存事業は、シェアの拡大や収益性の向上により、
年平均2~3%の安定成長を見込む

売上高
'26/3期
2,405億円

既存事業

2026/3期実績
経常利益率 9.1%
ROE 9.4%

既存事業

オリジナル製品拡大による収益性向上

2026/3期 製品売上構成比（枚数ベース）

従来素材
31%

オリジナル製品
69%



同じ素材で競合

オリジナル製品の比率を向上

非発泡容器（HIPS）

切り替え

✓ 新低発泡PSP容器
▶ 発泡化により原価低減



✓ APデリオ・MSDデリオ
▶ 自動化に対応した強度と軽量化を両立



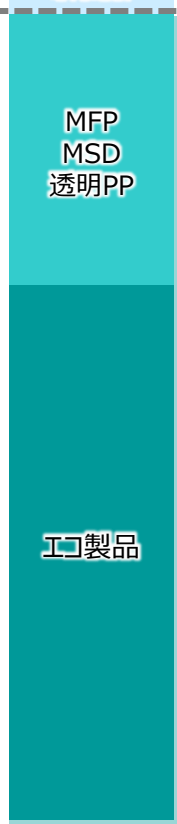
✓ 耐寒PPiP-タルク
▶ 冷凍マーケットの開拓




✓ エコPSP
▶ 溶解分離リサイクルによる増産



✓ エコAPET
▶ 押出機増設によってエコ原料の生産能力15%増強

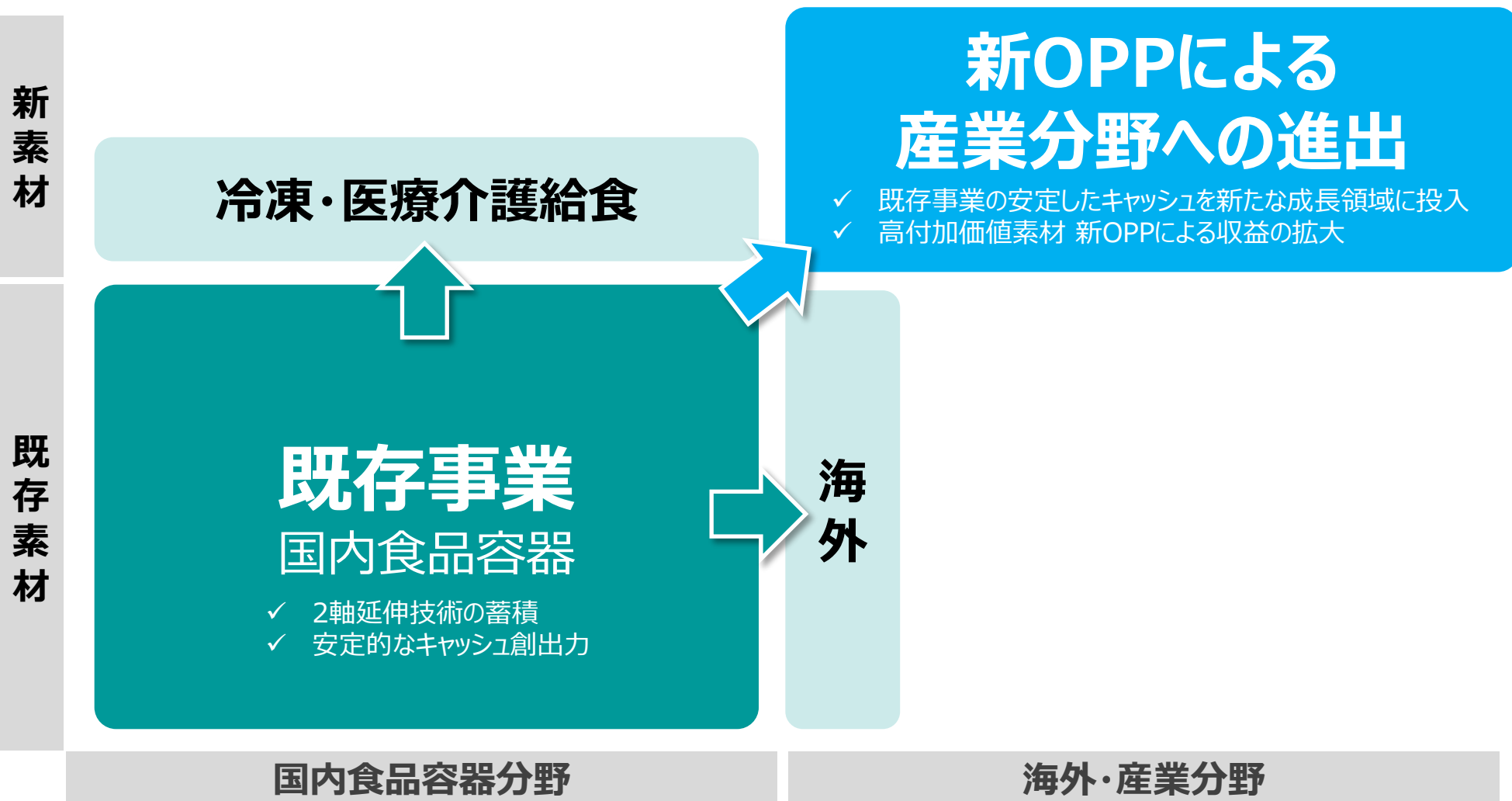


- シェアの維持・拡大
- 価格交渉力
- 原料価格影響の抑制
- プラスチック使用量削減による原価低減



事業ポートフォリオの多層化

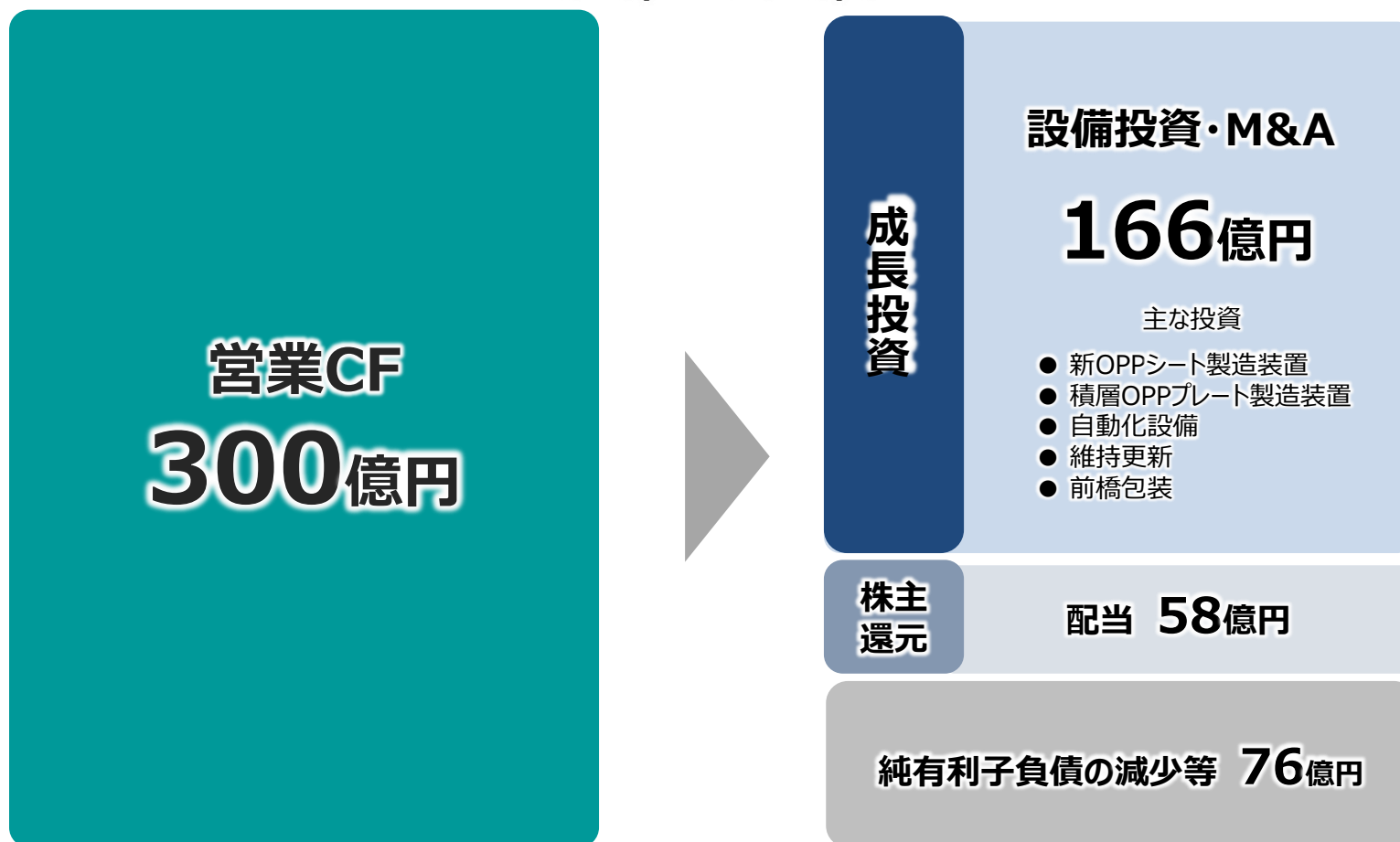
既存事業で培った技術力と安定的なキャッシュ創出力により
事業ポートフォリオを多層化、より強固な収益基盤を構築する



財務戦略 実績 (2026/3期)

- 営業キャッシュフローは、将来の成長や安定供給に向けた設備投資やM&A、株主還元に充当
- 財務安全性を考慮しつつ、借入金を活用

2025/4~2026/3



財務戦略計画 (2027/3期～2029/3期)

- 営業キャッシュフローおよび資金調達を原資とし、投資・株主還元を戦略的に配分
- 事業に必要なキャッシュポジションは150～200億円
- 格付A格を維持する範囲で有利子負債を活用

2027/3期～2029/3期 (3年間累計)

営業CF

880億円

成長投資

1,000億円

(27/3期 370億円
28/3期 260億円
29/3期 370億円)

新OPP関連 450億円

- 坂東工場（仮称）建設
- 新OPPシートによる高機能容器の開発
- 新OPPシート、積層OPPプレートによる産業分野における用途開発

既存事業・維持更新 550億円

- 坂東配送センター（仮称）による物流バックアップ
- リサイクルの技術開発
- 海外事業の強化
- 維持更新投資等

M&Aの検討

- グループインフラを活用した問屋連携
- 業界再編

配当

- 配当性向40%を目途に原則として減配せず累進配当

追加還元検討

- 自己株式取得は、資本構成の最適化に加えて、戦略投資や株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施

有利子負債の活用

株主還元

180億円

● 配当方針

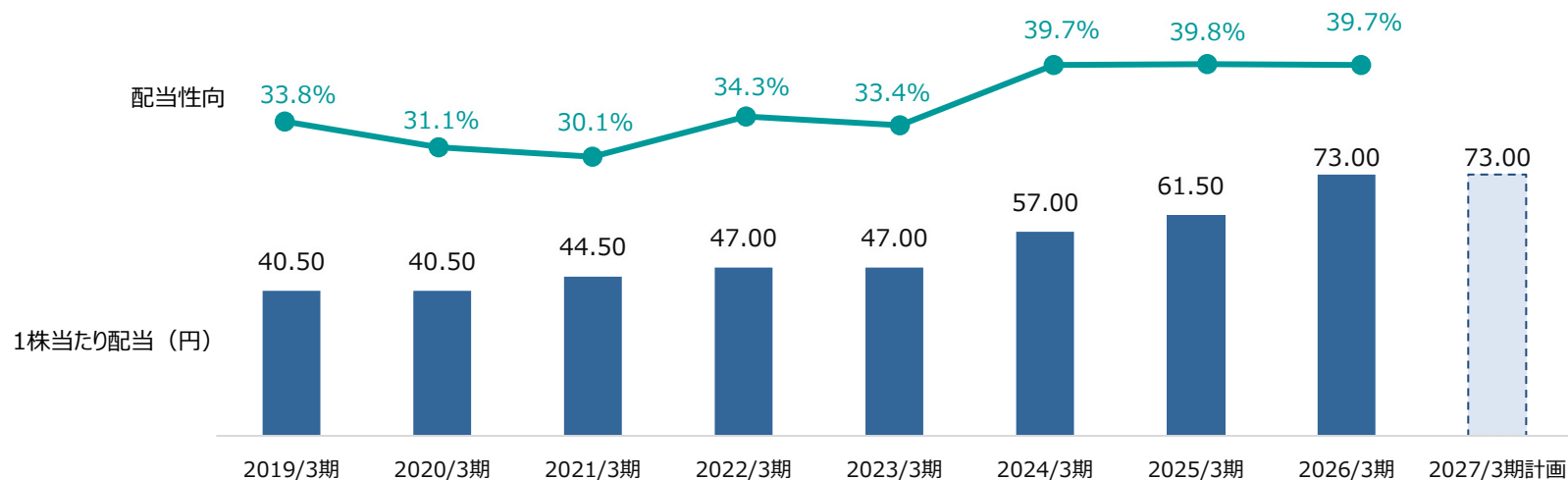
目途とする**連結配当性向40%**、**原則として減配せず、累進配当を実施**
 中長期的な利益成長に応じた安定的な配当額の向上を目指す

▶ 2027/3期の1株当たり配当は、累進配当に基づき**73円00銭**

▶ 1株あたり利益を高めることで増配を図る

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討



(単位：億円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
配当	33	33	37	38	38	46	50	59
自己株式の取得	-	-	40	-	-	30	-	-
合計	33	33	77	38	38	76	50	59
総還元性向	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%	39.8%	39.7%

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

★:オリジナル製品



PS	ポリスチレン
PET	ポリエチレンテレフタレート
PP	ポリプロピレン
★ エコPSP容器	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
★ エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする リサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度 + 60℃
★ エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度 + 80℃
★ 低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%~60%軽量化
★ マルチFP(MFP)容器	冷凍温度帯から110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
★ マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度 + 110℃
★ 透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度 + 110℃（2012年販売開始）
★ 耐寒PPiP-タルク容器	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPフィラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量を保持
OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度 + 80℃
HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度 + 90℃
溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術
配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用



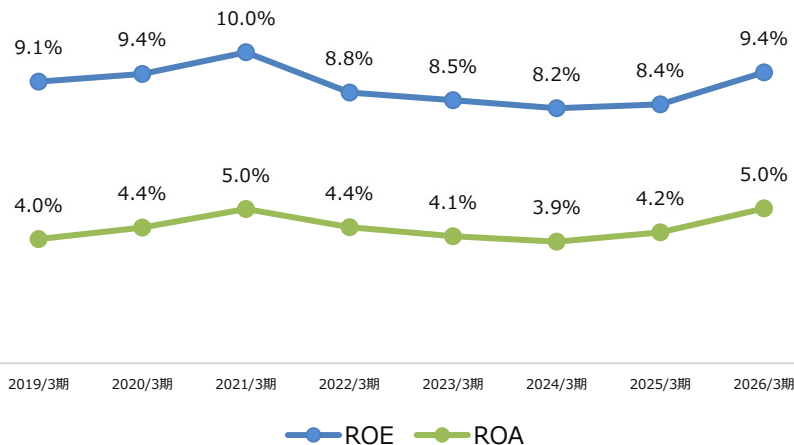
(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100	235,628	240,490
営業利益	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429	18,471	21,614
経常利益	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780	18,451	21,768
純利益	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724	12,486	14,869
償却前経常利益	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833	33,203	36,362
売上高経常利益率	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%	7.8%	9.1%
ROE	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%	8.4%	9.4%
ROA (総資産純利益率)	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%	4.2%	5.0%
EPS (円/株)	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50	154.46	183.87
配当 (円/株)	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00	61.50	73.00
配当性向	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%	39.8%	39.7%
自己株式取得	-	-	3,999	-	-	2,999	-	-
総資産	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580	292,226	304,062
純資産	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844	154,114	165,171
現預金	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707	19,020	25,478
有利子負債	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785	80,513	80,629
自己資本比率	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%	52.5%	54.1%
設備投資	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591	16,112	18,532
減価償却費	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052	14,751	14,594
研究開発費	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483	1,543	1,903
在庫回転月数 (ヶ月)	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57	1.55	1.58
リサイクル回収重量 (トン)	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500	90,000	90,000
リサイクル回収拠点数 (カ所)	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680	11,000	11,600

業績推移②

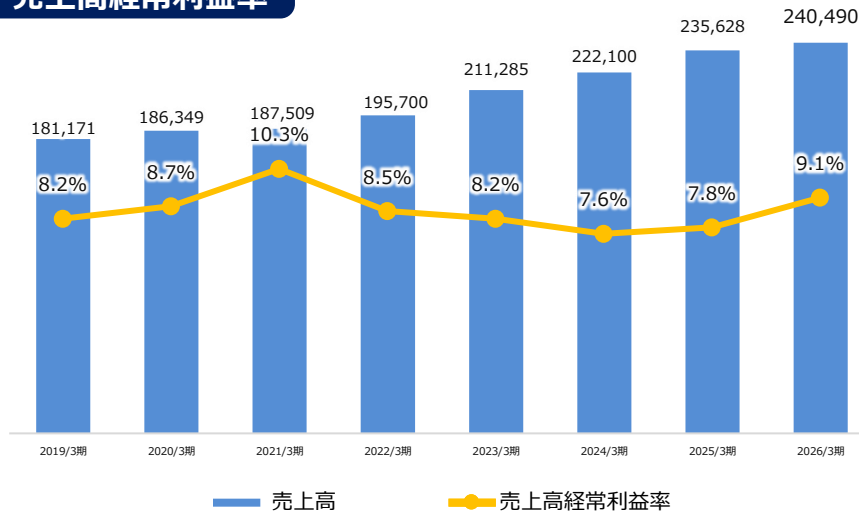
※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

ROE ROA



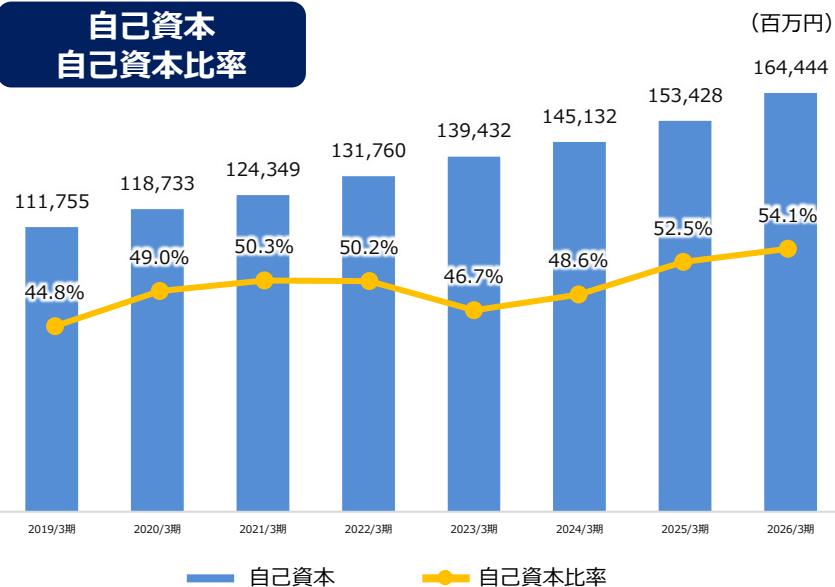
売上高 売上高経常利益率

(百万円)



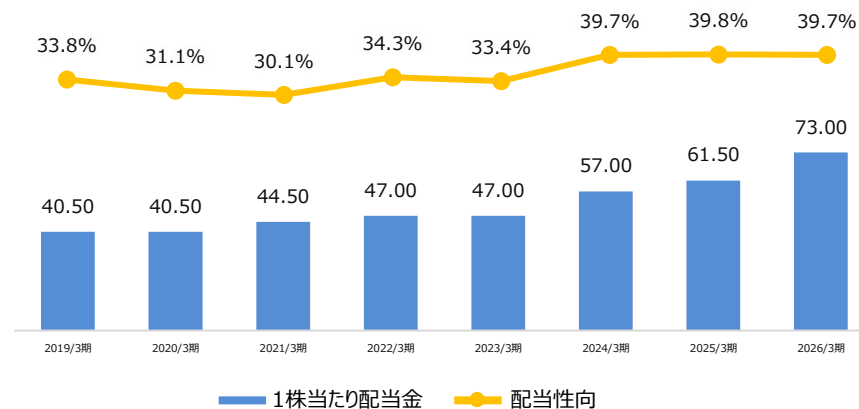
自己資本 自己資本比率

(百万円)



1株当たり配当金 配当性向

(円)

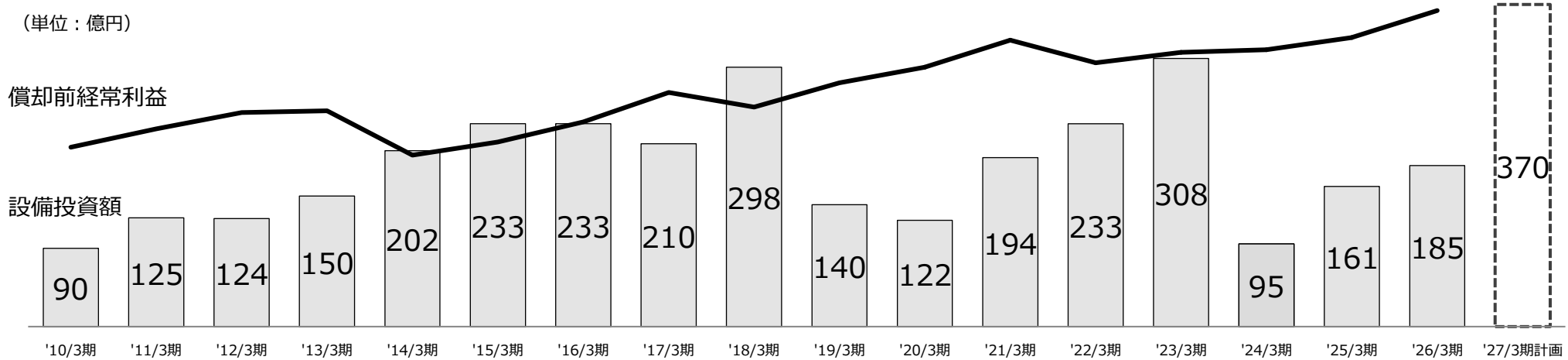


經常利益 増減要因 推移

	'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3			'26/3			
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	
前期 經常利益	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	
原料価格				+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0							-17.5	-13.9	-31.4	-10.0	-23.0	-33.0	-5.0	+13.3	+8.3	
	-14.8	-15.5	-30.3							-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6										
販売価格	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5																			
販売活動	+4.5	+7.2	+11.7	+3.5	+5.0	+8.5	+7.2	+9.8	+17.0	+11.0	+6.0	+17.0	+4.0	+3.5	+7.5										
																価格改定含む	+56.3	+4.0	+60.3	+11.2	+60.0	+71.2	+45.0	+0.7	+45.7
生産	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0	-2.0	-5.5	-7.5	
物流	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-5.7	-11.7	-7.0	-2.5	-9.5	
グループ会社	+0.5	+1.5	+2.0	+2.0	+0.1	+2.1	-0.7	+6.5	+5.8	+4.0	+2.0	+6.0	+2.0	+10.9	+12.9	-2.0	-3.7	-5.7	+3.0	±0.0	+3.0	-1.0	+1.5	+0.5	
経費増減	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.5	-10.8	-1.7	-2.6	-4.3	
増減計	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.1	+23.8	+16.7	+28.3	+4.9	+33.2	
当期 經常利益	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	93.5	124.2	217.7	

戦略投資

(単位：億円)



年間約**200**億円の投資水準

世界初の素材開発

- 2010年 マルチFP製品 上市
- 2012年 マルチソリッド製品 上市
- エコAPET製品 上市
- OPET製品 上市
- 新透明PP製品 上市
- 2016年 エコOPET製品 上市
- 2023年 低発泡容器 上市
- 2024年 新OPPシートの開発成功
- 耐寒PPiP-タルク製品 上市
- 2025年 定位置成形技術を確立

生産・リサイクル強化

- 2012年 関東八千代工場
- 2014年 総合研究所
- 2016年 中部エコペット工場
- 2017年 関東エコペット工場
- 2018年 エピコアルライト本社工場
- エピコグラビア本社工場
- 2022年 中部第一工場
- 2023年 関西工場
- 2024年 エピコアルライトダンボール工場
- 関西選別センター

物流網強化

- 2011年 中部ピッキングセンター
- 2014年 福山クロスドックセンター
- 八王子配送センター
- 2018年 エピコインターパック物流倉庫
- 2020年 九州配送センター拡充
- 福山ハブセンター拡充
- 2021年 中部クロスドックセンター拡充
- 2023年 関西ハブセンター

人への投資

- 2014年 人材開発研修センター
- 2018年 広島営業所
- エピコイシダ本社
- 2019年 エピコインターパック本社
- 单身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
- 2017年 1号館(150戸)
- 2号館(102戸)
- 2020年 3号館(63戸)
- 4号館(18戸)
- 2022年 5号館(140戸)

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2024年度～2025年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月	第2四半期 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
5月	決算説明会		
その他イベント			
2024年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 3月	国内投信 個人投資家向け工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	IR担当、部門長
2025年 9月	国内証券 スモールミーティング	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年12月	国内証券 営業員向け説明会	業績動向および成長戦略	代表取締役会長

● 個別対話概要（2024年度～2025年度）

投資家概要	対応者（案件により異なる）	2024年度 延べ人数	2025年度 延べ人数
中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・商事本部・IR担当） 常務取締役（総務人事担当）、サステナビリティ推進室	約270名	約280名

● 個別工場見学（2024年度～2025年度）

対応拠点	対応者（案件により異なる）	2024年度 延べ人数	2025年度 延べ人数
関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長	12名	7名

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難しく、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

耐寒PP-タルク

- ☆ 従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減
- ☆ 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度重量を保持

PS : ポリスチレン



PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

新透明PP



- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

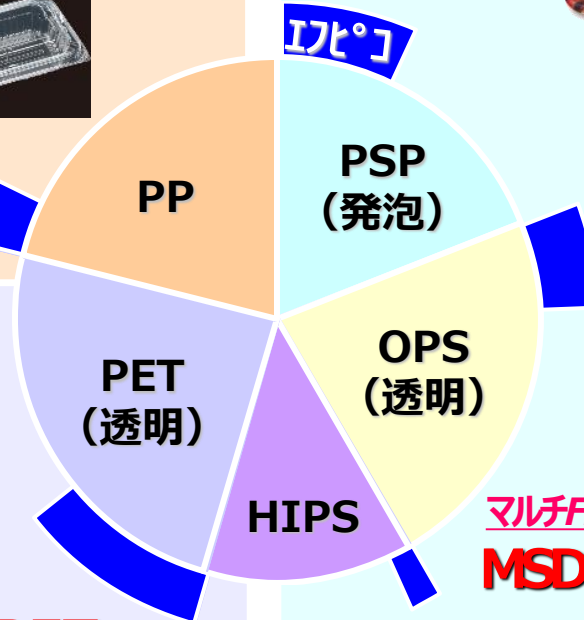
MFP : マルチFP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー
冷凍温度帯から110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能



PET : ポリエチレンテレフタレート

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい



マルチFP端材の循環

MSD : マルチリッド : 非発泡PS

OPS : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい



小売動向 (2023年4月～2026年3月)

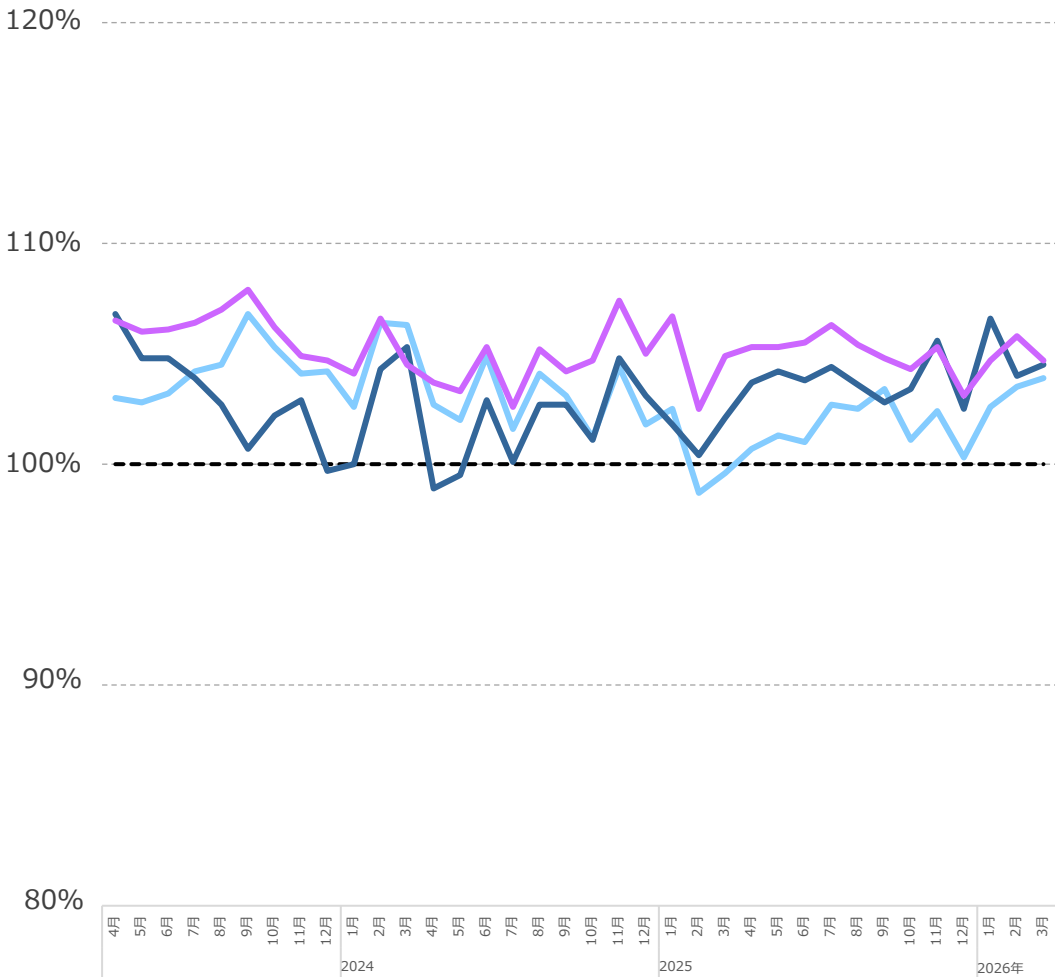
出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）

出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）



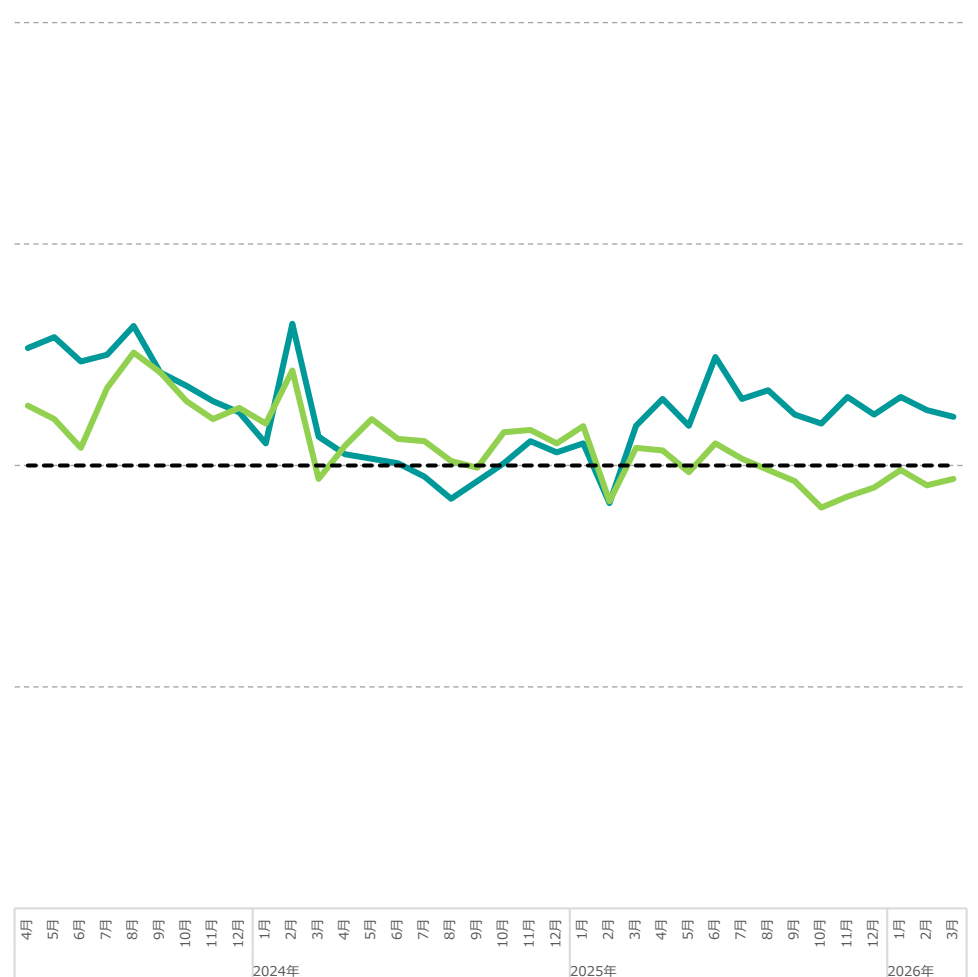
スーパーマーケット

水産 畜産 惣菜

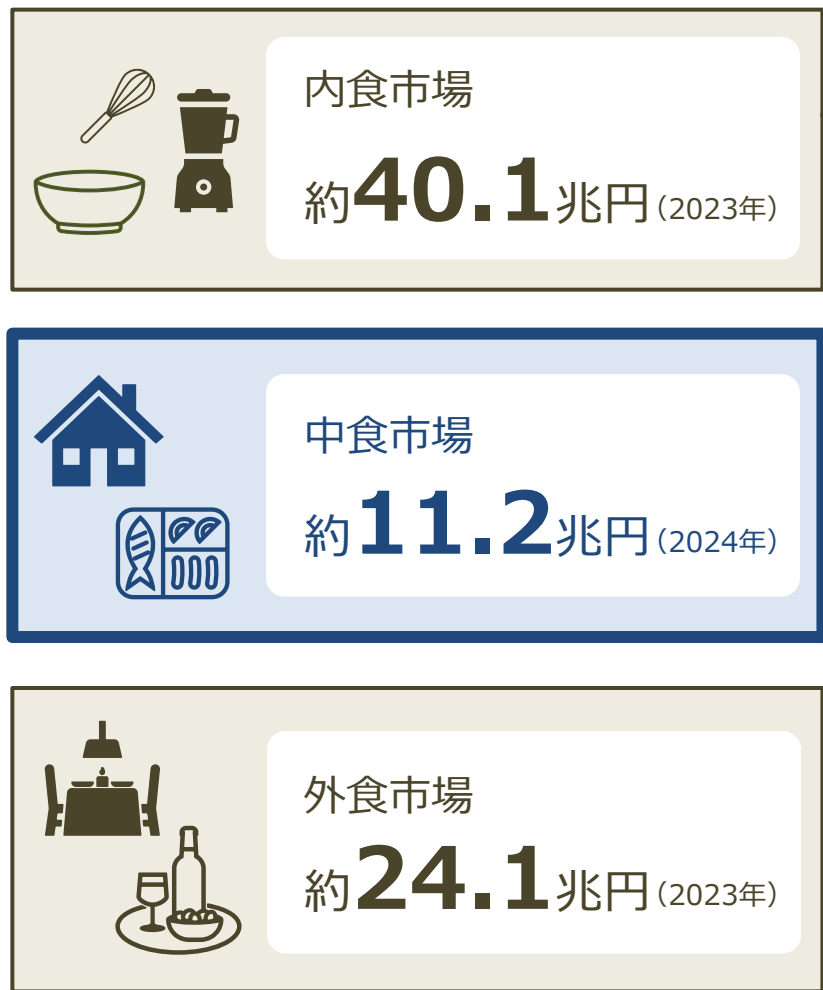


コンビニエンスストア

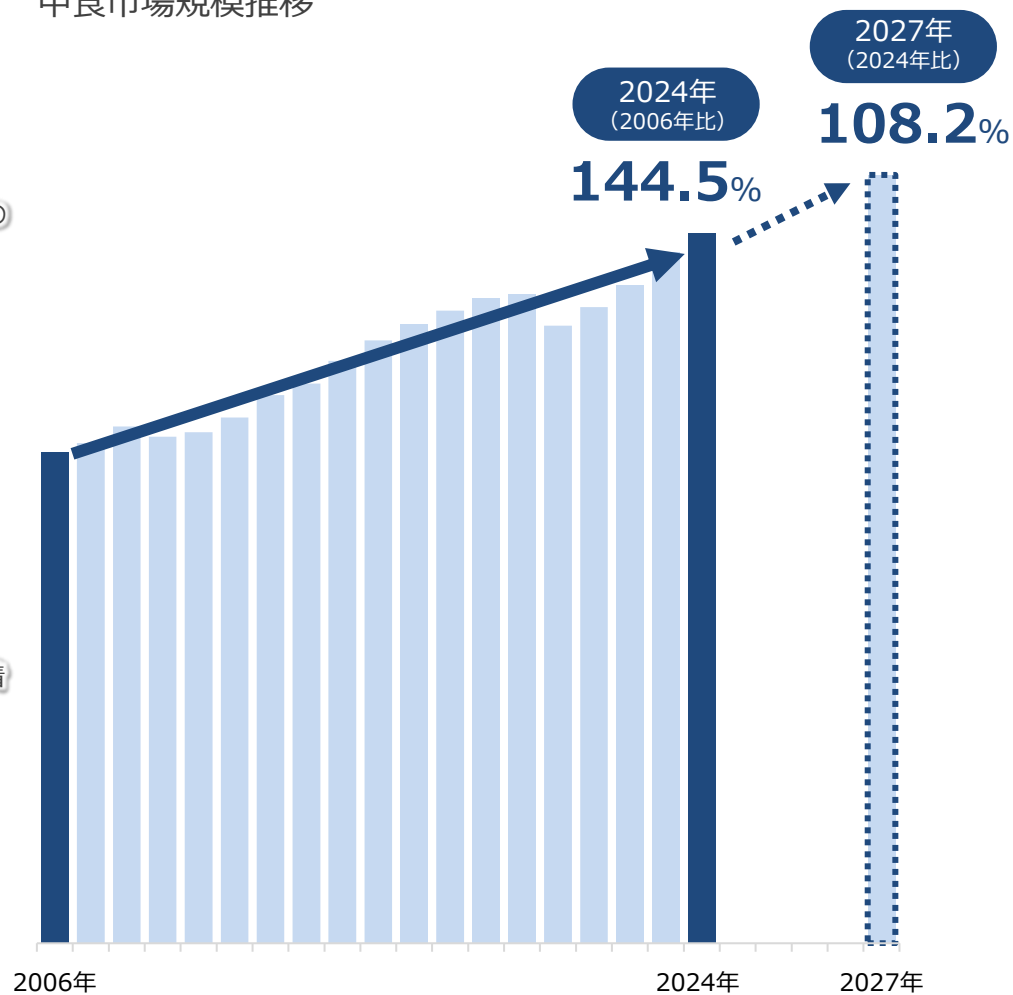
売上 客数



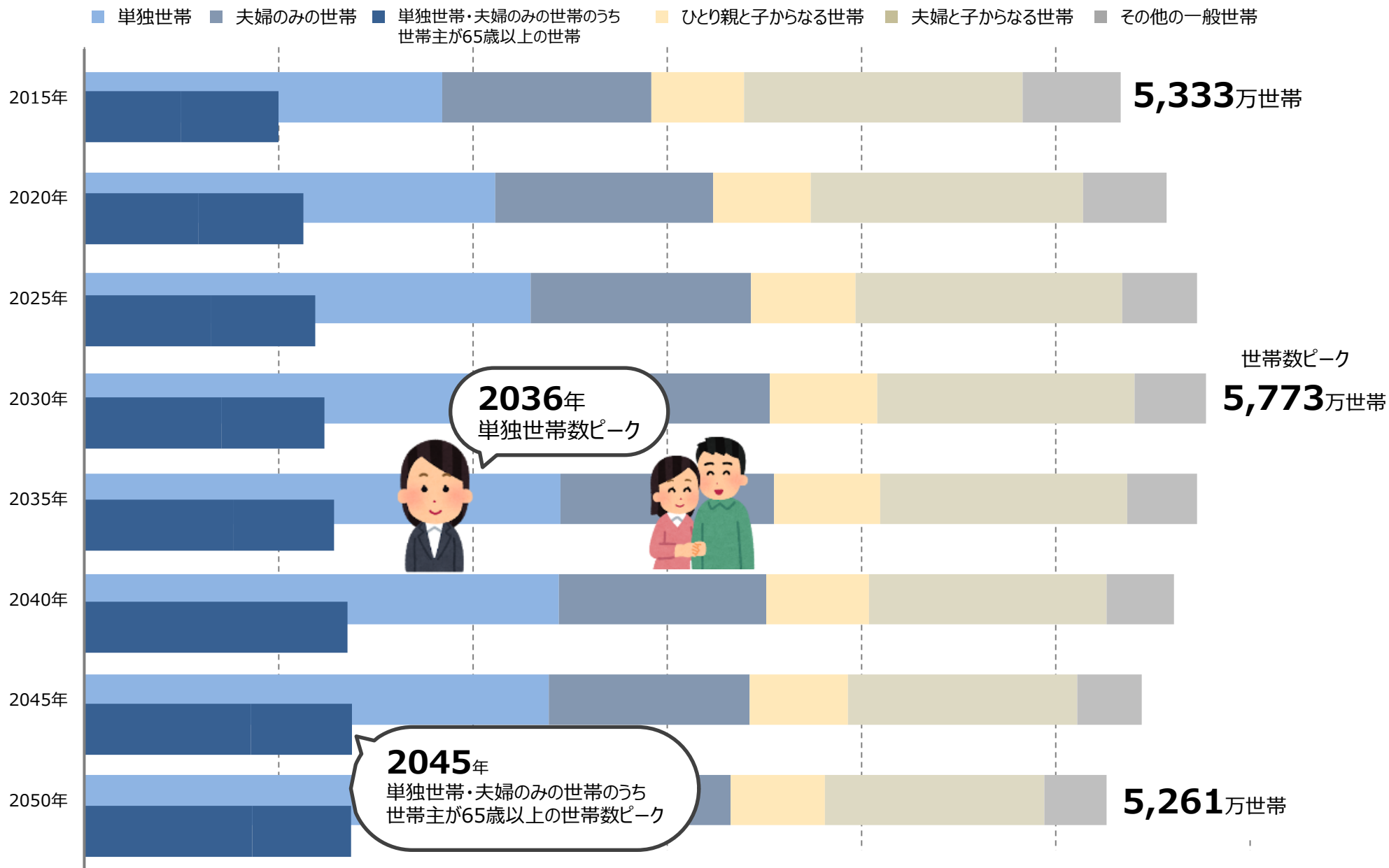
中食市場の拡大



中食市場規模推移



世帯数の推移



食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出

スーパーマーケット

+

コンビニエンスストア

+

食品メーカー（中食向け）

+

テイクアウト
デリバリー

冷凍食品

病院・介護施設

M&A

エコ・軽量化製品



マーケットの変化

人手不足

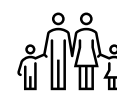
食品ロス

原料高騰

少子高齢化

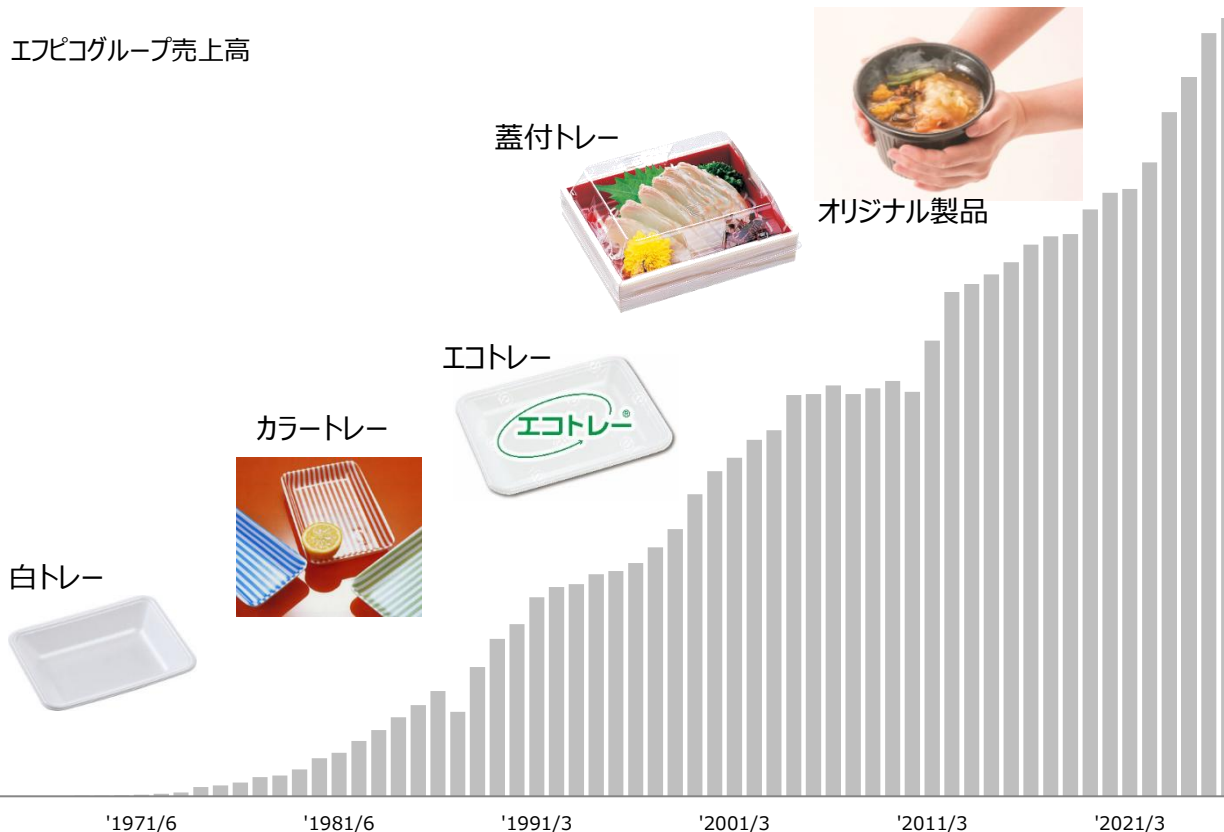
業界再編

環境意識

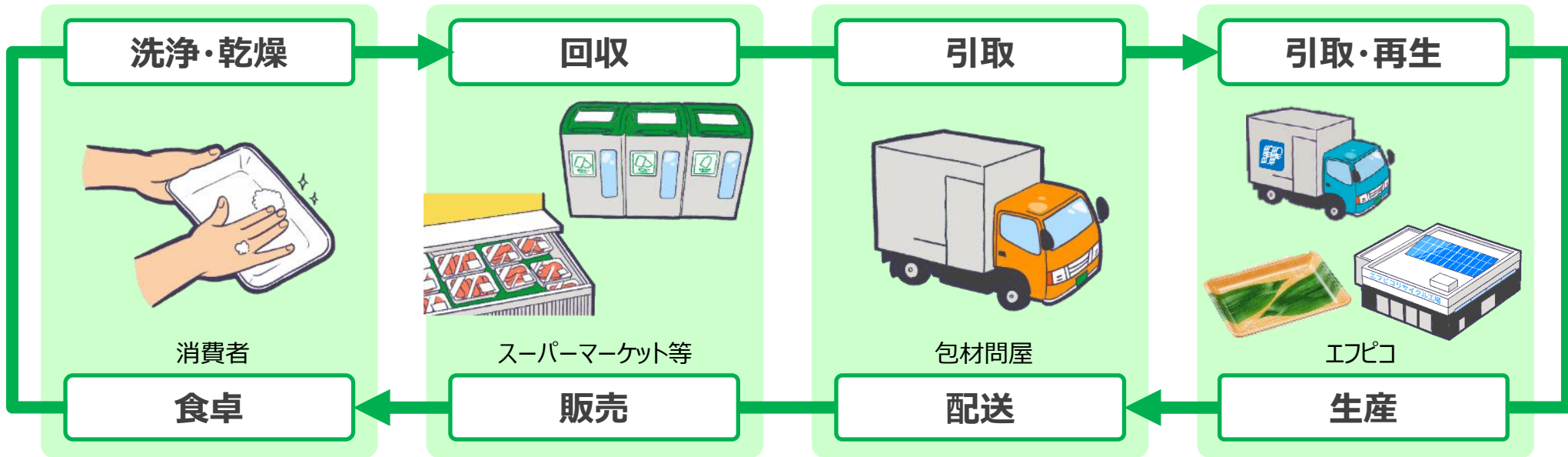


エフピコグループ売上高

(億円)



エフピコ方式のリサイクル



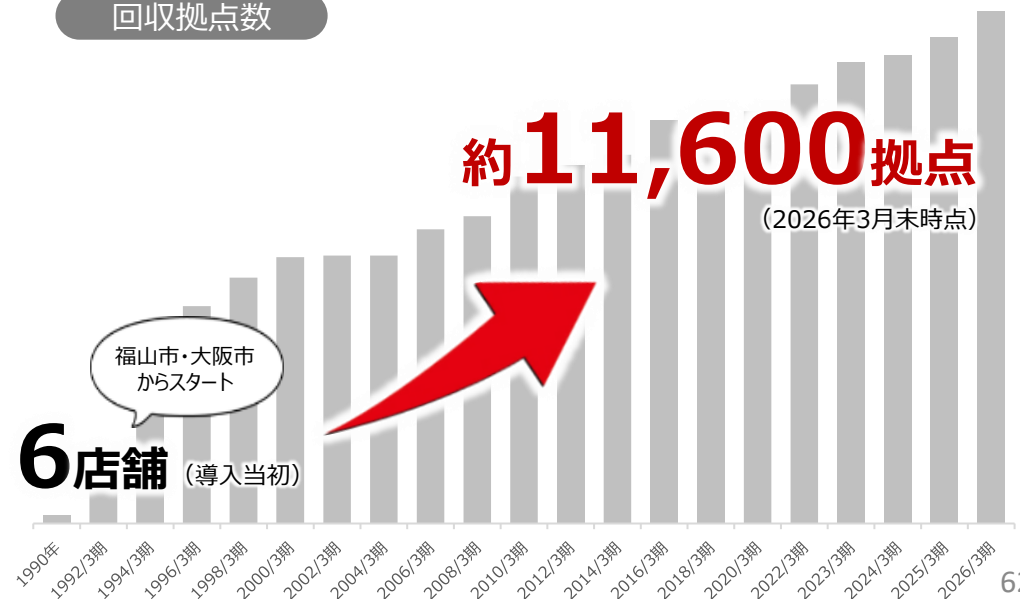
歴史

容器包装から紙包装へ変更

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エフピコ方式のリサイクル開始
- 1992年 「エコトレー」の販売開始
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始
- 2012年 「エコPET」の販売開始
- 2015年 パリ協定
- 2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



回収拠点数



プラスチック資源の回収

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
 PSP : 4g、透明容器 : 10g、PETボトル : 25g



全国を網羅する生産・物流拠点

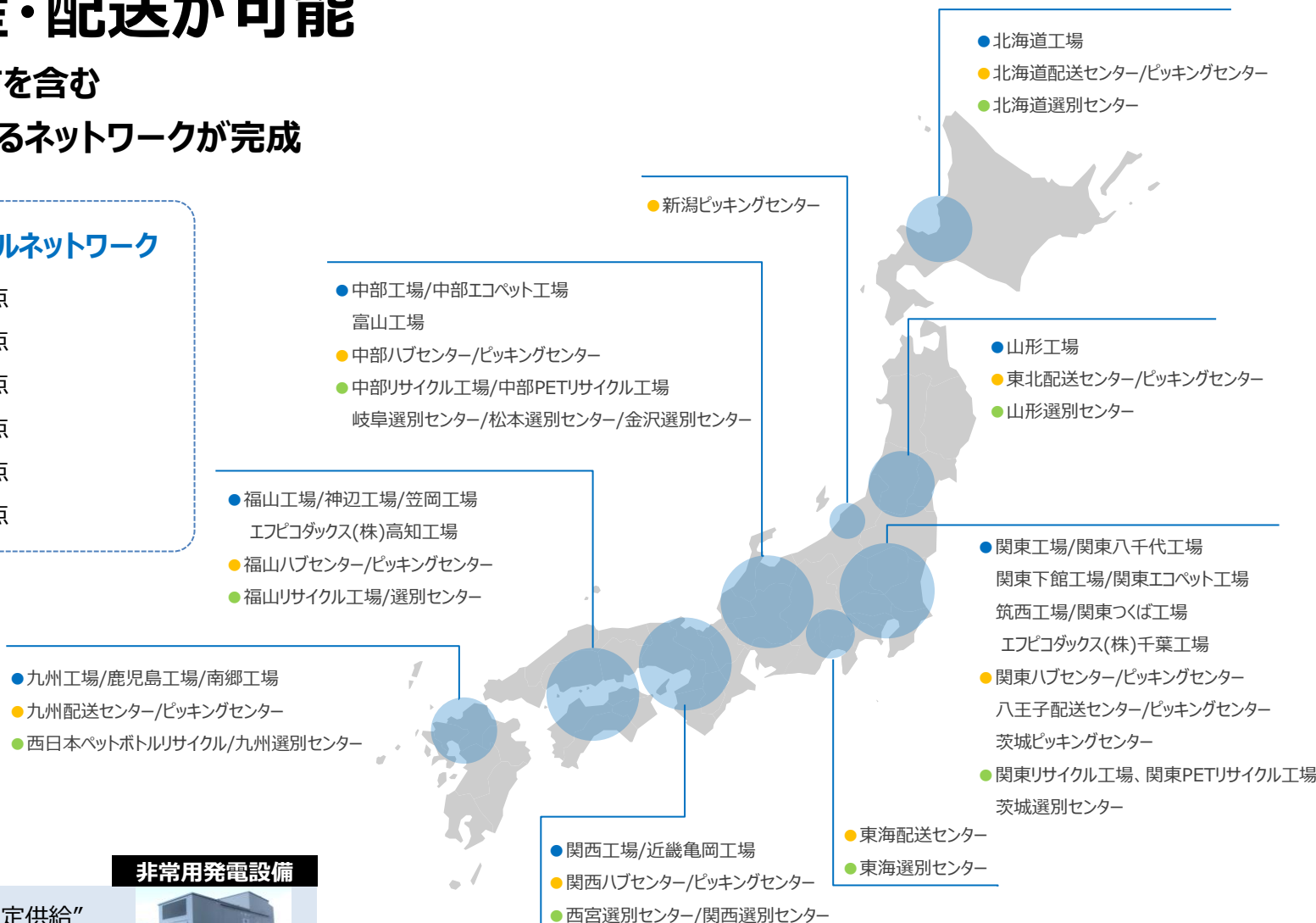
各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

- 生産工場 21拠点
- 配送・ハブセンター 9拠点
- ピッキングセンター 10拠点
- PSPトレーリサイクル工場 3拠点
- PETボトルリサイクル工場 3拠点
- 選別センター 11拠点

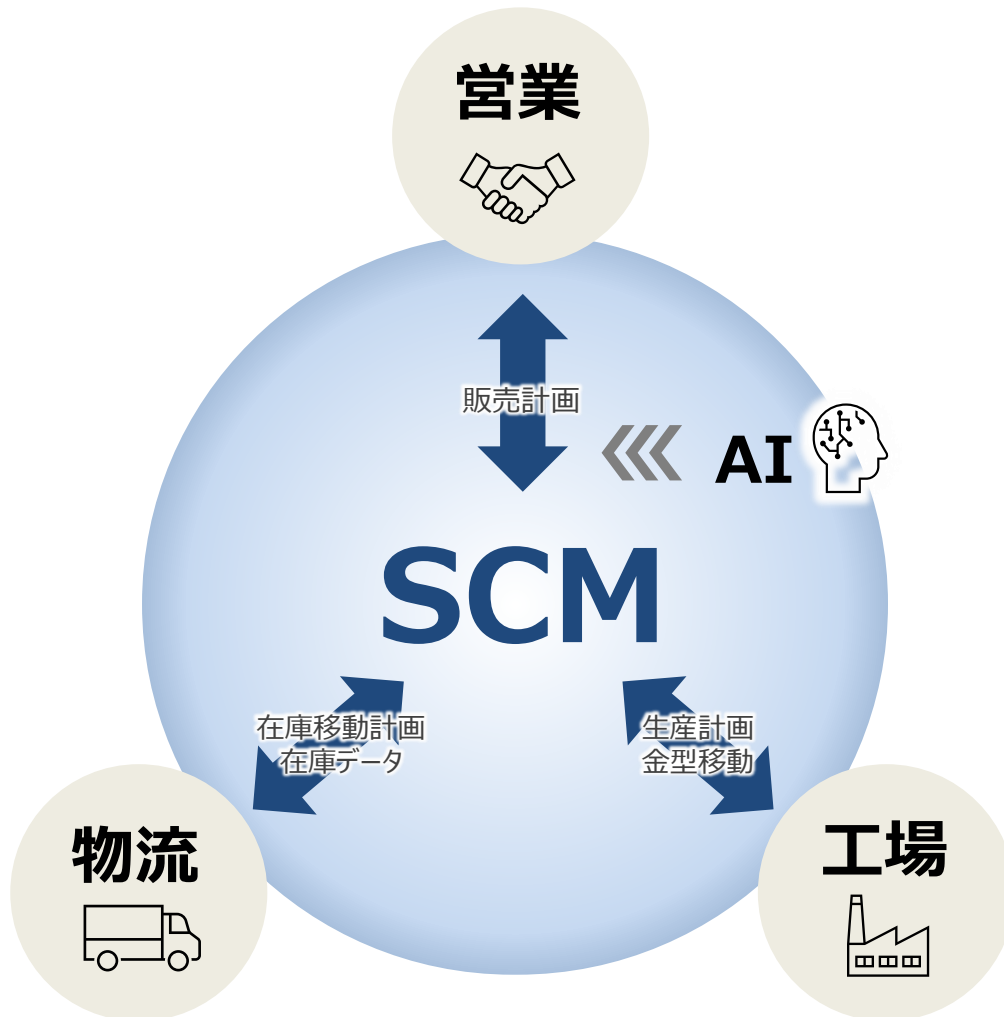


非常用発電設備



B C P (事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保

安全・安心な食生活を支える**安定供給**



- ✓ 約**12,000**アイテムの品揃え
- ✓ 適切な在庫水準を維持
- ✓ AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



単純なモノの移動の省人化

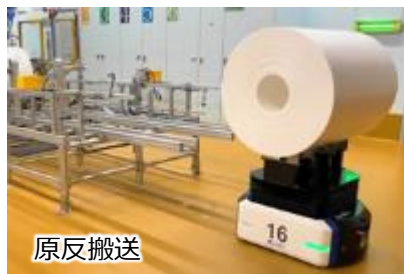
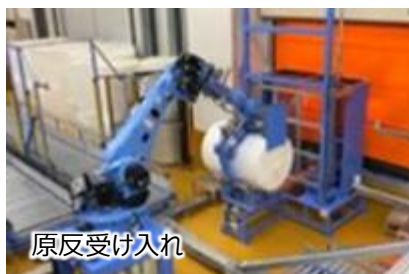
重労働の軽作業化



頻度の高い作業の省人化



生産部門



物流部門



- AGV : 33台 ('26/3期)
- AGF : 6台 ('26/3期)
- ソーター : 5センターに導入

自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善

2019年3月期 退職金制度の拡充

2021年3月期 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期 製造・物流会社における現場社員を対象に

- ・給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ・初任給の引き上げ
- ・休日日数の増加

(2022年 **104**日、2023年 **114**日、2024年 **116**日、2025年 **120**日)

2025年3月期 給与水準平均5%の改定

2026年3月期 給与水準平均5%台半ばの改定、12年連続ベースアップ^o

外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE (英)

2024年6月

4.0



2025年6月

4.0

MSCI (米)

2025年5月

BBB



2026年3月

BB

CDP (英)

2025年2月

A



2026年1月

A-



SUSTAINALYTICS (蘭)

2024年11月

17.8
(Low Risk)



2026年1月

14.9
(Low Risk)
※低い程良い

ESG指数



FTSE JPX Blossom
Japan Index

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



FTSE JPX Blossom
Japan Sector
Relative Index

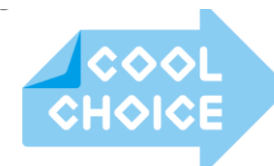
Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index (GenDi J)

その他外部機関からの評価・活動

外部評価



平成27年度
地球温暖化防止活動環境大臣表彰



環境関連参画団体



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

エピコグループの基幹業務で活躍

お客様の障がい者雇用をサポート

障がい者雇用人数

405名

エピコをサポートで
お取引様を中心に

障がい者雇用率換算数

676.5名

61社 785名

の雇用が生まれました
(2026年3月時点)

障がい者雇用率

12.5% (2026年3月時点)



製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



選別

使用済み食品トレー
透明容器



● 障がい者雇用に関する評価

- ▶ 2025年10月 (東洋経済新報社) 「障害者雇用率ランキング」 3位
- ▶ 2022年6月 (厚労省) 「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定 (もにす認定)」 ※エピコダックス(株)
- ▶ 2019年1月 (厚労省) 「H30年度 障害者活躍企業」認証 ※エピコダックス(株)



最新鋭の **生産** **物流** **リサイクル** をご覧いただけます

